

# 1 「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果の概要について

## (1) 「令和4年度全国学力・学習状況調査」実施状況の概要

本年4月19日(火)に調査を実施。調査の対象は、全国の小学校第6学年・義務教育学校前期課程第6学年・特別支援学校小学部第6学年、中学校第3学年・義務教育学校後期課程第3学年・中等教育学校前期課程第3学年・特別支援学校中学部第3学年の全児童生徒。

- 教科に関する調査として、国語、算数・数学、理科の調査を、質問紙調査として、児童生徒及び学校を対象に生活習慣や学習環境等についての調査を実施
- 本県の調査実施校は、公立小学校等752校(645校)、公立中学校等373校(319校)、合計1,125校(964校)
- ※( )内は、千葉市を除いた数。※公立小学校は、当日時間を遅延して実施した学校(1校)を含む。

## (2) 教科に関する結果の概要

○教科に関する調査(平均正答数及び平均正答率)において、本県公立学校の結果は、全国平均と比較して小学校国語、同算数、同理科は同等の状況であり、中学校国語、同数学、同理科は1ポイント程度低い状況である。全ての校種・教科において、記述式の問題に引き続き課題がみられる。児童生徒の正答数の分布状況は全国の状況とほぼ同等である。

### 令和4年度教科区別調査結果(平均正答数及び平均正答率)

※平均正答数及び平均正答率の 上段(白)は、千葉県(千葉市を含む)、( )内は、千葉県(千葉市を除く) 下段(網掛け)は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)	中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.2 (9.2)	66 (66)	国語 <全14問>	9.5 (9.5)	68 (68)
	9.2	65.6		9.7	69.0
算数 <全16問>	10.0 (10.0)	63 (62)	数学 <全16問>	7.0 (7.0)	50 (50)
	10.1	63.2		7.2	51.4
理科 <全17問>	10.7 (10.6)	63 (62)	理科 <全21問>	10.2 (10.1)	48 (48)
	10.8	63.3		10.4	49.3

\*文部科学省からの発表に基づき、平成28年度からは、県の平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

【参考】平均正答率の前回教科別調査結果との比較 (%) ※千葉県を含む \*理科は平成30年度

小学校		令和4年度	令和3年度*	中学校		令和4年度	令和3年度*
国語	千葉県	66	65	国語	千葉県	68	65
	全国	65.6	64.7		全国	69.0	64.6
	差	0.4	0.3		差	▲1.0	0.4
算数	千葉県	63	70	数学	千葉県	50	56
	全国	63.2	70.2		全国	51.4	57.2
	差	▲0.2	▲0.2		差	▲1.4	▲1.2
理科	千葉県	63	61	理科	千葉県	48	65
	全国	63.3	60.3		全国	49.3	66.1
	差	▲0.3	0.7		差	▲1.3	▲1.1

＜小学校国語＞ [参照] P15～16、別冊資料 P資1

**問題形式別** ※ ( ) 内は平均正答率

短答式…2.5ポイント高 (全国63.6% 千葉県66.1%)

記述式…0.5ポイント低 (全国51.3% 千葉県50.8%)

\*記述式は、R3年度は2.3ポイント低い状況であった。

**全国より平均正答率が高い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

3三ア「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」

3.1ポイント高 (全国65.2% 千葉県68.3%)

3三ウ「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」

3.6ポイント高 (全国67.1% 千葉県70.7%)

**全国より平均正答率が低い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

1二「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」

1.6ポイント低 (全国68.8% 千葉県67.2%)

3一「文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える」

2.3ポイント低 (全国59.2% 千葉県56.9%)

**無解答率が高い設問** ※ ( ) 内は無解答率

3二「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」

0.2ポイント高 (全国14.5% 千葉県14.7%)

<中学校国語> [参照] P17～18、別冊資料 P資2

**問題形式別** ※ ( ) 内は平均正答率

短答式…1.1ポイント低 (全国70.3% 千葉県69.2%)

記述式…3.2ポイント低 (全国57.4% 千葉県54.2%)

**全国より平均正答率が高い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

3二「事象や行為、心情を表す語句について理解する」

1.7ポイント高 (全国84.0% 千葉県85.7%)

4一「行書の特徴を理解する」

1.3ポイント高 (全国39.4% 千葉県40.7%)

**全国より平均正答率が低い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

1一「聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する」

3.5ポイント低 (全国74.7% 千葉県71.2%)

1三「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」

6.8ポイント低 (全国51.8% 千葉県45.0%)

**無解答率が高い設問** ※ ( ) 内は無解答率

1三「自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す」

3.7ポイント高 (全国16.2% 千葉県19.9%)

3四「場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する」

1.1ポイント高 (全国13.3% 千葉県14.4%)

<小学校算数> [参照] P19～21、別冊資料 P資3

**問題形式別** ※ ( ) 内は平均正答率

短答式…0.3ポイント低 (全国76.5% 千葉県76.2%)

記述式…1.3ポイント低 (全国60.2% 千葉県58.9%)

**全国より平均正答率が高い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

2(1)「百分率で表された割合を分数で表すことができる」

0.8ポイント高 (全国71.1% 千葉県71.9%)

4(4)「示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる」

0.7ポイント高 (全国57.6% 千葉県58.3%)

**全国より平均正答率が低い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

1(3)「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」

2.0ポイント低 (全国76.0% 千葉県74.0%)

1(4)「示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる」

2.3ポイント低 (全国34.8% 千葉県32.5%)

### 無解答率が高い設問

小学校算数において、無解答率が10%を越えるものはなかった。

〔参考〕 全国との差が大きかった設問 ※ ( ) 内は無解答率

- 1 (3) 「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」  
1.1ポイント高 (全国5.2% 千葉県6.3%)
- 3 (4) 「加法と除法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる」  
1.1ポイント高 (全国8.6% 千葉県9.7%)

### <中学校数学> [参照] P22～24、別冊資料 P資4

#### 問題形式別 ※ ( ) 内は平均正答率

短答式…1.8ポイント低 (全国65.7% 千葉県63.9%)

記述式…1.6ポイント低 (全国36.2% 千葉県34.6%)

#### 全国より平均正答率が高い設問 ※ ( ) 内は平均正答率

- 3 「反例の意味を理解している」 0.4ポイント高 (全国44.9% 千葉県45.3%)

#### 全国より平均正答率が低い設問 ※ ( ) 内は平均正答率

- 1 「自然数を素数の積で表すことができる」  
6.6ポイント低 (全国52.2% 千葉県45.6%)
- 6 (2) 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」  
3.0ポイント低 (全国48.7% 千葉県45.7%)

#### 無解答率が高い設問 ※ ( ) 内は無解答率

- 6 (3) 「結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる」  
3.4ポイント高 (全国26.2% 千葉県29.6%)
- 9 (2) 「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」  
5.1ポイント高 (全国38.5% 千葉県43.6%)

### <小学校理科> [参照] P25～27、別冊資料 P資5

#### 問題形式別 ※ ( ) 内は平均正答率

短答式… 同 程 度 (全国66.2% 千葉県66.2%)

記述式…1.4ポイント低 (全国47.3% 千葉県45.9%)

#### 全国より平均正答率が高い設問 ※ ( ) 内は平均正答率

- 2 (1) 「メスシリンダーという器具を理解している」  
1.2ポイント高 (全国67.8% 千葉県69.0%)

- 2 (3) 「自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる」

1.4ポイント高 (全国62.8% 千葉県64.2%)

**全国より平均正答率が低い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

- 2 (4) 「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」

2.5ポイント低 (全国39.3% 千葉県36.8%)

- 4 (2) 「予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる」

3.0ポイント低 (全国64.5% 千葉県61.5%)

**無解答率が高い設問** ※ ( ) 内は無解答率

- 2 (4) 「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」

1.3ポイント高 (全国8.7% 千葉県10.0%)

- 3 (4) 「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」

1.1ポイント高 (全国11.2% 千葉県12.3%)

**<中学校理科>** [参照] P28~30、別冊資料 P資6

**問題形式別** ※ ( ) 内は平均正答率

短答式…0.1ポイント高 (全国24.8% 千葉県24.9%)

記述式…1.9ポイント低 (全国53.5% 千葉県51.6%)

**全国より平均正答率が高い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

- 5 (1) 「力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる」

0.7ポイント高 (全国15.3% 千葉県16.0%)

- 7 (1) 「液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」

0.7ポイント高 (全国35.9% 千葉県36.6%)

**全国より平均正答率が低い設問** ※ ( ) 内は平均正答率

- 5 (3) 「考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる」

3.7ポイント低 (全国43.3% 千葉県39.6%)

- 6 (1) 「玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる」

2.6ポイント低 (全国48.0% 千葉県45.4%)

**無解答率が高い設問** ※ ( ) 内は無解答率

- 5 (3) 「考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる」  
3.5ポイント高 (全国29.4% 千葉県32.9%)
- 8 (2) 「予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことができるかどうかをみる」  
2.0ポイント高 (全国14.9% 千葉県16.9%)

**(3) 質問紙調査に関する結果の概要**

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

【学校質問紙29】 [参照] P34・36

「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」

※肯定的回答をした学校

小学校 83.1% (H29) →81.4% (R3) →86.2% (R4) 全国89.8% (R4)

中学校 76.1% (H29) →78.8% (R3) →84.4% (R4) 全国87.0% (R4)

○ICTを活用した学習状況 (ICTの活用頻度)

【学校質問紙59 (小) 57 (中)】 [参照] P41

「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」

※「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した学校

小学校 83.1% (R4) 全国85.1% (R4)

中学校 75.9% (R4) 全国81.2% (R4)

○児童生徒の学校外での学習時間

【児童生徒質問紙21】 [参照] P37

「学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」

※「3時間以上」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した児童生徒

児童 29.3% (H31) →26.7% (R3) →25.8% (R4) 全国 25.1% (R4)

生徒 36.4% (H31) →46.3% (R3) →37.1% (R4) 全国 35.2% (R4)

※「30分より少ない」「全くしない」と回答した児童生徒

児童 11.4% (H31) →14.7% (R3) →15.9% (R4) 全国 14.7% (R4)

生徒 13.6% (H31) → 8.8% (R3) →13.8% (R4) 全国 13.4% (R4)

【参考】

○授業における記述の指導と平均正答率とのクロス集計

【学校質問紙4 1 (小)】 [参照] P47

「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか」

【学校質問紙4 1 (中)】 [参照] P47

「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか」

※クロス集計の結果	平均正答率 (学校数)	平均正答率 (学校数)
1. よく行った	小国 66.4% (185)	中国 68.2% (151)
2. どちらかといえば、行った	64.1% (505)	66.1% (201)
3. あまり行わなかった	62.3% ( 62)	66.6% ( 20)
4. 全く行わなかった	0.0% ( -)	0.0% ( -)

○授業における探究型の指導と平均正答率とのクロス集計

【学校質問紙5 2 (小)】 [参照] P48

「調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか」

【学校質問紙5 1 (中)】 [参照] P48

「調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか」

※クロス集計の結果	平均正答率 (学校数)	平均正答率 (学校数)
1. よく行った	小理 62.8% (274)	中理 48.6% ( 89)
2. どちらかといえば、行った	61.8% (436)	47.9% (195)
3. あまり行わなかった	58.0% ( 42)	46.3% ( 84)
4. 全く行わなかった	0.0% ( -)	49.4% ( 4)

#### (4) 今後の対応

##### ア 各学校での調査結果の分析と活用の充実

各学校において、県教育委員会が開発した分析ツール等を用いて、調査結果を分析し、学力向上に向けた授業改善に活用できるようにする。

具体的には、各学校が教科に関する調査や質問紙調査の結果を多面的・多角的に分析し、自校の特色や弱点などを明確にすることで、学力向上に向けた目標設定や具体的な方法を検討していくことになる。

そのために、教育事務所が行う学校訪問において、分析方法や課題解決等の取組内容について学校に応じた指導・助言を行う。

##### イ 学力向上に特に効果をあげている取組の周知

今回調査において特に成果の見られた管内学校の状況を、学校や地域の特色も踏まえた上で調査し、それらの学校の学力向上に係る取組を、好事例として、学校訪問や学力向上交流会、県教育委員会のホームページ等を活用して横展開し、県内で広く実践することができるように働きかける。

##### ウ 千葉県の子育て支援を反映させたリーフレットや実践事例の作成

今回明らかになった課題を踏まえ、『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を効果的に活用することを促すとともに、探究的な学びに関する授業モデルを開発する。これらについて、毎月発行している学力向上通信や年度末に発行する学力向上のためのリーフレットに掲載し、授業改善に向けた取組を後押しする。

##### エ 学校現場で活用できる「学力向上の手引き」の作成

今年度の調査結果から明らかになった課題を踏まえた指導改善のために、本県の調査結果の詳細や分析ツールの活用方法などを掲載した「学力向上の手引き」を作成し、Web ページに掲載することによって、各校における校内研修や教育課程編成における活用を促進する。

引き続き、県教育委員会では、調査結果の詳細な分析を行い、具体的な改善策を示していく。

## 2 教科区別の平均正答率等の経年変化 —教科に関する調査—

### 令和3年度

※・上段（白）は、千葉県(公立)  
 ・上段（白）の（ ）内は、千葉県（千葉市を除く公立）  
 ・下段（網掛け）は、全国(公立)を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.0 (9.0)	65 (64)
	9.1	64.7
算数 <全16問>	11.3 (11.2)	70 (70)
	11.2	70.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	9.1 (9.0)	65 (64)
	9.0	64.6
数学 <全16問>	9.0 (8.9)	56 (56)
	9.1	57.2

令和2年度 ※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施せず。問題配付のみ。

### 平成31年度（令和元年度）

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全14問>	8.8 (8.8)	63 (63)
	8.9	63.8
算数 <全14問>	9.2 (9.2)	66 (65)
	9.3	66.6

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語 <全10問>	7.2 (7.2)	72 (72)
	7.3	72.8
数学 <全16問>	9.2 (9.2)	58 (57)
	9.6	59.8
*英語 <全21問>	11.7 (11.6)	56 (55)
	11.8	56.0

〈参考〉

*英語 (話すこと) <全5問>	1.5	30.8
------------------------	-----	------

\*中学校英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の平均正答数及び平均正答率の結果を示す。

\*英語の「話すこと」調査は、実施校の全国（国公立を含む）総数のみを公表し、結果については、全国の平均正答数及び平均正答率を「参考値」として公表。都道府県別、指定都市別の公表は行わない。また、「話すこと」に関する問題は、原則として口述式で解答するものとなっている。

平成30年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) ＜全12問＞	8.4 (8.4)	70 (70)
	8.5	70.7
国語B(活用) ＜全8問＞	4.3 (4.3)	53 (53)
	4.4	54.7
算数A(知識) ＜全14問＞	8.7 (8.7)	62 (62)
	8.9	63.5
算数B(活用) ＜全10問＞	5.1 (5.0)	51 (50)
	5.1	51.5
理科 ＜全16問＞	9.8 (9.8)	61 (61)
	9.6	60.3

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) ＜全32問＞	24.3 (24.3)	76 (76)
	24.3	76.1
国語B(活用) ＜全9問＞	5.5 (5.5)	61 (61)
	5.5	61.2
数学A(知識) ＜全36問＞	23.0 (23.0)	64 (64)
	23.8	66.1
数学B(活用) ＜全14問＞	6.4 (6.4)	46 (46)
	6.6	46.9
理科 ＜全27問＞	17.6 (17.5)	65 (65)
	17.9	66.1

平成29年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) ＜全15問＞	11.2 (11.2)	75 (75)
	11.2	74.8
国語B(活用) ＜全9問＞	5.2 (5.1)	57 (57)
	5.2	57.5
算数A(知識) ＜全15問＞	11.6 (11.6)	77 (77)
	11.8	78.6
算数B(活用) ＜全11問＞	5.1 (5.0)	46 (46)
	5.1	45.9

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) ＜全32問＞	24.4 (24.3)	76 (76)
	24.8	77.4
国語B(活用) ＜全9問＞	6.5 (6.4)	72 (72)
	6.5	72.2
数学A(知識) ＜全36問＞	22.6 (22.4)	63 (62)
	23.3	64.6
数学B(活用) ＜全15問＞	7.0 (7.0)	47 (46)
	7.2	48.1

【参考】※以下、平均正答数及び平均正答率の、上段は千葉県（公立）、下段は全国(公立)を示す。

平成28年度 ※文部科学省からの依頼に基づき、平成28年度からは、県平均正答率について、小数点以下を四捨五入した結果を示す。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	10.9 10.9	73 72.9
国語B(活用) <全10問>	5.8 5.8	58 57.8
算数A(知識) <全16問>	12.2 12.4	77 77.6
算数B(活用) <全13問>	6.1 6.1	47 47.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.1 25.0	76 75.6
国語B(活用) <全9問>	6.0 6.0	67 66.5
数学A(知識) <全36問>	21.7 22.4	60 62.2
数学B(活用) <全15問>	6.4 6.6	43 44.1

平成27年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全14問>	10.0 9.8	71.5 70.0
国語B(活用) <全9問>	5.8 5.9	64.5 65.4
算数A(知識) <全16問>	12.0 12.0	74.7 75.2
算数B(活用) <全13問>	5.9 5.9	45.1 45.0
理科 <全24問>	14.9 14.6	61.9 60.8

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.1 25.0	76.0 75.8
国語B(活用) <全9問>	5.9 5.9	65.7 65.8
数学A(知識) <全36問>	22.8 23.2	63.4 64.4
数学B(活用) <全15問>	6.2 6.2	41.6 41.6
理科 <全25問>	13.0 13.3	52.0 53.0

平成26年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	11.4 10.9	75.8 72.9
国語B(活用) <全10問>	5.5 5.5	55.5 55.5
算数A(知識) <全17問>	13.3 13.3	78.2 78.1
算数B(活用) <全13問>	7.6 7.6	58.8 58.2

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	25.5 25.4	79.8 79.4
国語B(活用) <全9問>	4.7 4.6	51.7 51.0
数学A(知識) <全36問>	24.0 24.3	66.7 67.4
数学B(活用) <全15問>	9.0 9.0	60.1 59.8

平成25年度

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	11.1 11.3	61.9 62.7
国語B(活用) <全10問>	5.0 4.9	50.1 49.4
算数A(知識) <全19問>	14.7 14.7	77.1 77.2
算数B(活用) <全13問>	7.7 7.6	59.4 58.4

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.4 24.4	76.2 76.4
国語B(活用) <全9問>	6.1 6.1	68.1 67.4
数学A(知識) <全36問>	22.7 22.9	63.2 63.7
数学B(活用) <全16問>	6.6 6.6	41.5 41.5

**平成24年度**

※平成22年度、平成24年度は抽出調査のため、平均正答率については、誤差も含めた数値の幅「平均正答率の95%信頼区間」で示している。

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全17問>	13.9 ----- 13.9	80.9 - 82.3 ----- 81.4 - 81.7
国語B(活用) <全11問>	6.3 ----- 6.1	56.4 - 58.3 ----- 55.4 - 55.8
算数A(知識) <全19問>	14.0 ----- 13.9	72.6 - 74.5 ----- 73.1 - 73.5
算数B(活用) <全13問>	7.8 ----- 7.7	59.3 - 61.3 ----- 58.7 - 59.1
*理科 <全24問>	15.0 ----- 14.6	61.8 - 63.3 ----- 60.8 - 61.1

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全32問>	24.0 ----- 24.0	74.3 - 75.5 ----- 75.0 - 75.2
国語B(活用) <全9問>	5.7 ----- 5.7	62.9 - 64.2 ----- 63.2 - 63.4
数学A(知識) <全36問>	22.1 ----- 22.4	60.5 - 62.2 ----- 62.0 - 62.3
数学B(活用) <全15問>	7.3 ----- 7.4	47.7 - 49.9 ----- 49.2 - 49.5
*理科 <全26問>	13.0 ----- 13.3	49.4 - 50.9 ----- 50.9 - 51.1

\*理科については、主として「知識」に関する問題と、主として「活用」に関する問題を一体的に出題している。

**平成23年度**

※平成23年度は震災の影響で実施せず。問題の配付のみ。

**平成22年度**

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全15問>	12.5 ----- 12.5	82.7 - 84.2 ----- 83.2 - 83.5
国語B(活用) <全10問>	7.8 ----- 7.8	77.2 - 79.2 ----- 77.7 - 78.0
算数A(知識) <全19問>	14.1 ----- 14.1	73.1 - 75.1 ----- 74.0 - 74.4
算数B(活用) <全12問>	6.1 ----- 5.9	49.7 - 51.7 ----- 49.1 - 49.5

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全35問>	26.4 ----- 26.3	74.8 - 75.9 ----- 75.0 - 75.2
国語B(活用) <全10問>	6.7 ----- 6.5	65.8 - 67.3 ----- 65.1 - 65.5
数学A(知識) <全36問>	23.0 ----- 23.3	63.0 - 64.9 ----- 64.4 - 64.8
数学B(活用) <全14問>	6.1 ----- 6.1	42.2 - 44.3 ----- 43.1 - 43.5

**平成21年度**

小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	12.8 ----- 12.6	71.0 ----- 69.9
国語B(活用) <全10問>	5.1 ----- 5.1	51.3 ----- 50.5
算数A(知識) <全18問>	14.4 ----- 14.2	79.8 ----- 78.7
算数B(活用) <全14問>	7.9 ----- 7.7	56.3 ----- 54.8

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全33問>	25.3 ----- 25.4	76.8 ----- 77.0
国語B(活用) <全11問>	8.2 ----- 8.2	74.6 ----- 74.5
数学A(知識) <全33問>	20.3 ----- 20.7	61.6 ----- 62.7
数学B(活用) <全15問>	8.5 ----- 8.5	56.7 ----- 56.9

**平成20年度**

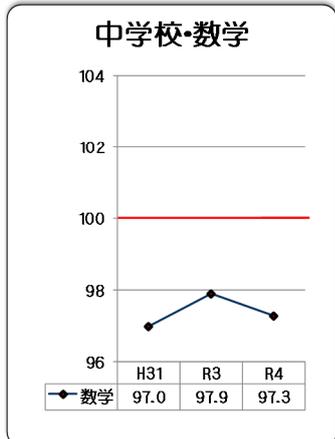
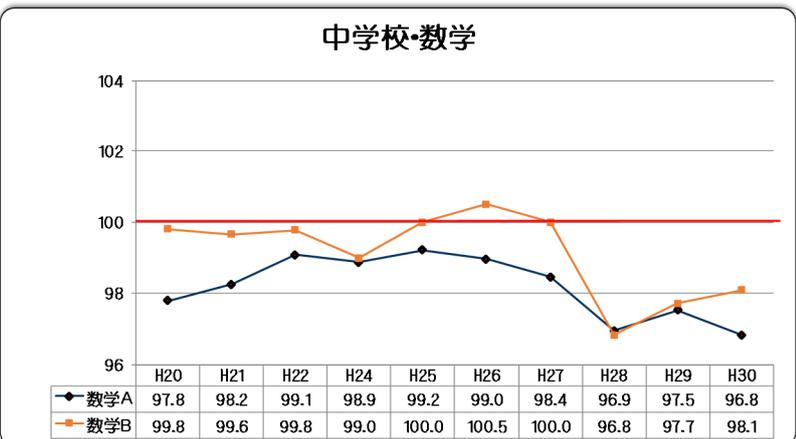
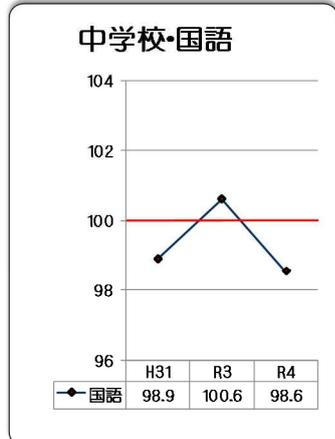
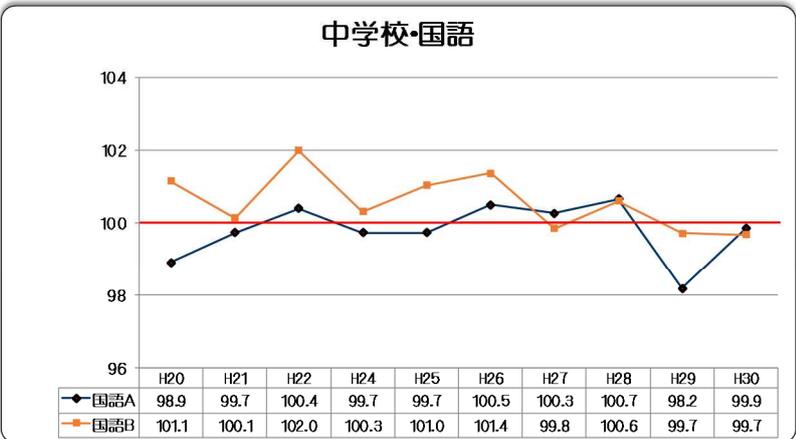
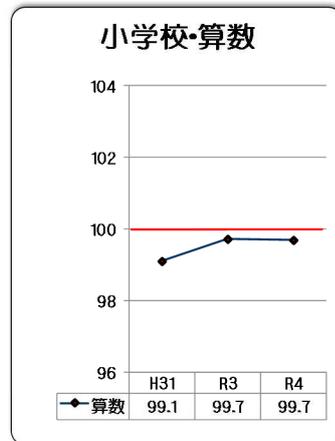
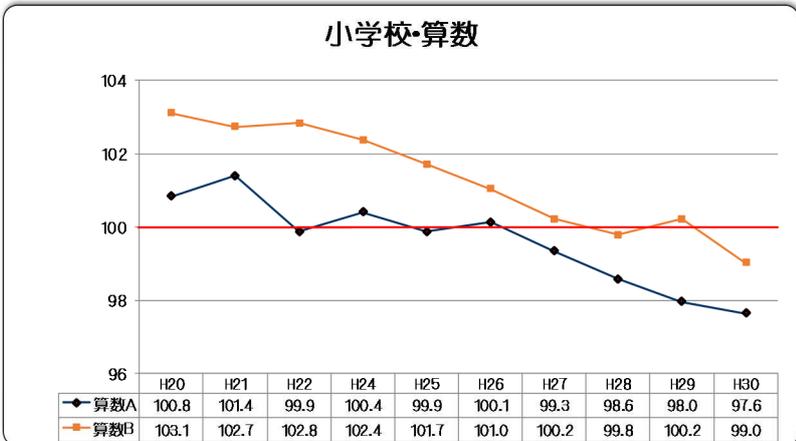
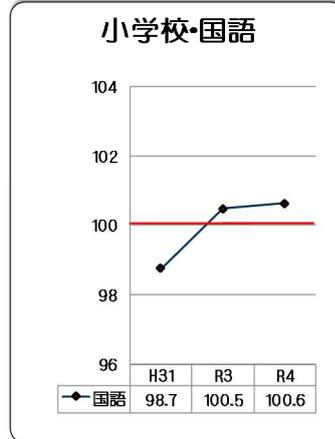
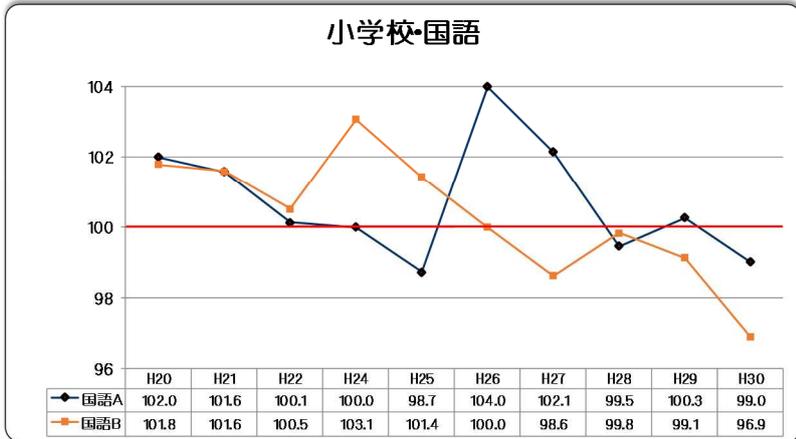
小学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全18問>	12.0 ----- 11.8	66.7 ----- 65.4
国語B(活用) <全12問>	6.2 ----- 6.1	51.4 ----- 50.5
算数A(知識) <全19問>	13.8 ----- 13.7	72.8 ----- 72.2
算数B(活用) <全13問>	6.9 ----- 6.7	53.2 ----- 51.6

中学校	平均正答数	平均正答率(%)
国語A(知識) <全34問>	24.8 ----- 25.0	72.8 ----- 73.6
国語B(活用) <全10問>	6.2 ----- 6.1	61.6 ----- 60.9
数学A(知識) <全36問>	22.2 ----- 22.7	61.7 ----- 63.1
数学B(活用) <全15問>	7.4 ----- 7.4	49.1 ----- 49.2

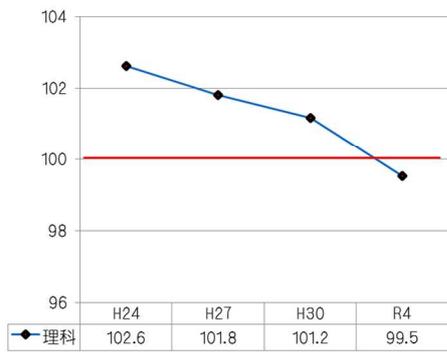
# 本県の平均正答率(全国比)の推移

※全国（公立）を100として、千葉県（公立）の結果を相対的に表した数値をもとに記述している。

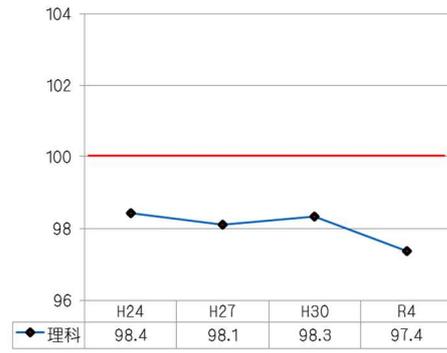
※平成31年度（令和元年度）からは、A、B問題を一体化して問われるため、独立したグラフにして示している。



小学校・理科



中学校・理科



### 3 教科に関する調査結果

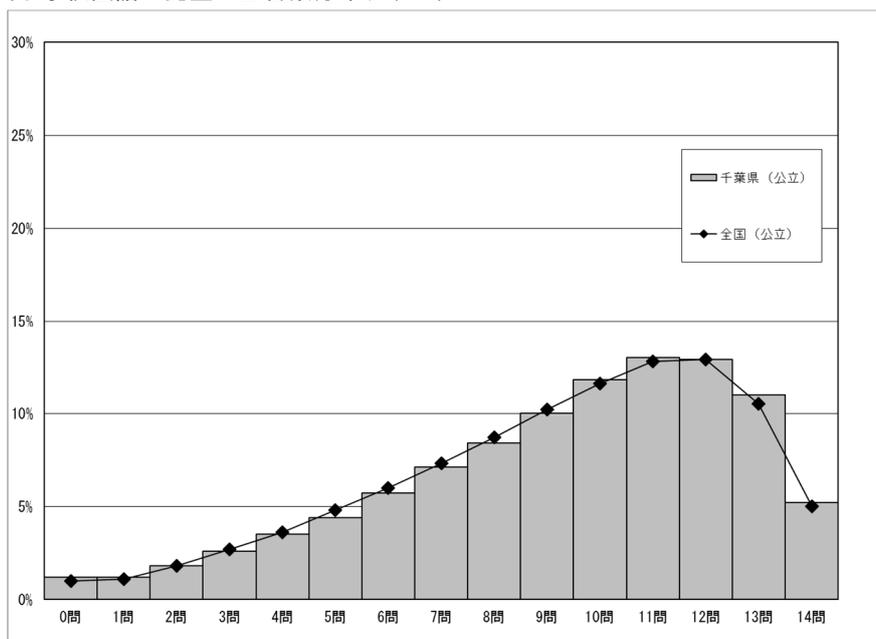
#### (1) 【小学校国語】

〈分類・区分別集計結果〉

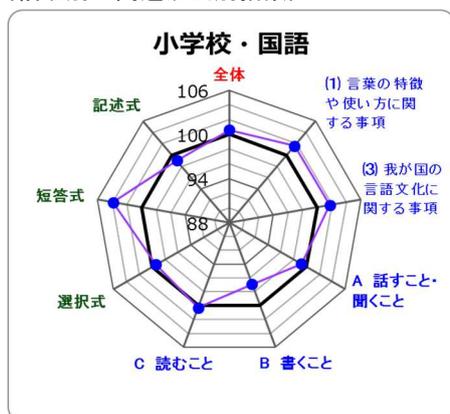
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		14	66	65.6	
学習指導 要領の 内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	70.1	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0		
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	79.2	77.9
	思考力、判断力、 表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	65.7	66.2
		B 書くこと	2	47.0	48.5
		C 読むこと	4	66.8	66.6
評価の観点	知識・技能	6	71.6	70.5	
	思考・判断・表現	8	61.6	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	8	71.4	71.8	
	短答式	3	66.1	63.6	
	記述式	3	50.8	51.3	

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	48,451	9.2 / 14	66	10.0	3.3
全国(公立)	965,308	9.2 / 14	65.6	10.0	3.3

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・国語		
	全体(活用)	100.6
領域	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	101.6
	(2) 情報の扱い方に関する事項	
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	101.7
	A 話すこと・聞くこと	99.2
	B 書くこと	96.9
	C 読むこと	100.3
問題形式	選択式	99.4
	短答式	103.9
	記述式	99.0

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

## 〈調査結果(全国)のポイント〉

- 互いの立場を尊重して話し合いを進める上で、必要なことを質問して話の中心を捉えることはできているが、学習指導要領で新たに示された、相手とのつながりをつくる言葉の働きを捉えることに課題がみられる。
- 本調査で初めて取り上げた、文章の構成や展開について感想や意見を伝え合うことを通して自分の文章のよさを見付けることに課題がみられる。

## 〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	知識・技能	思考・判断・表現	態度・主体的に学習に取り組む	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差		
		に(1)関する事項	(2)る事項	(3)関する事項													A	B
1二	言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える	5・6ア					○						67.2	68.8	-1.6	1.4	1.0	0.4
1四	互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる				5・6オ			○					46.9	47.7	-0.8	3.5	3.0	0.5
2一(1)	登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える								○				68.8	68.4	0.4	1.3	1.0	0.3
2二	人物像や物語の全体像を具体的に想像する								○				68.5	68.3	0.2	13.1	12.2	0.9
2三	表現の効果を考える								○				59.1	59.2	-0.1	3.6	3.2	0.4
3一	文章全体の構成や書き表しなどに着目して、文や文章を整える				5・6オ			○					56.9	59.2	-2.3	2.8	2.5	0.3
3二	文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける				5・6カ			○					37.1	37.7	-0.6	14.7	14.5	0.2
3三ア		5・6エ						○					68.3	65.2	3.1	8.1	8.1	0.0
3三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う	5・6エ						○					59.4	58.7	0.7	11.1	10.2	0.9
3三ウ		5・6エ						○					70.7	67.1	3.6	14.4	14.7	-0.3

- ※課題となる設問とした基準
- ・平均正答率70%未満の設問
  - ・全国との差が5%以上の設問
  - ・無解答率が10%以上の設問

## 〈調査結果(千葉県)の詳細〉

- 平均正答率は全国平均に比べ0.4ポイント高い状況である。前回(令和3年度)の平均正答率は全国平均に比べ0.3ポイント高い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。  
(領域別)
- 「書くこと」については、平均を100としたときの指数に比べ3.1ポイント低い状況である。
- 互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。(設問1四)
- 人物像や物語の全体像を具体的に想像することに課題がある。(設問2二)
- 文章全体の構成や書き表しなどに着目して、文や文章を整えることに課題がある。(設問3一)
- 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることに課題がある。(設問3二)
- (問題形式別)
- 全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.6ポイント低く、「短答式」は3.9ポイント高く、「記述式」は1.0ポイント低い状況である。

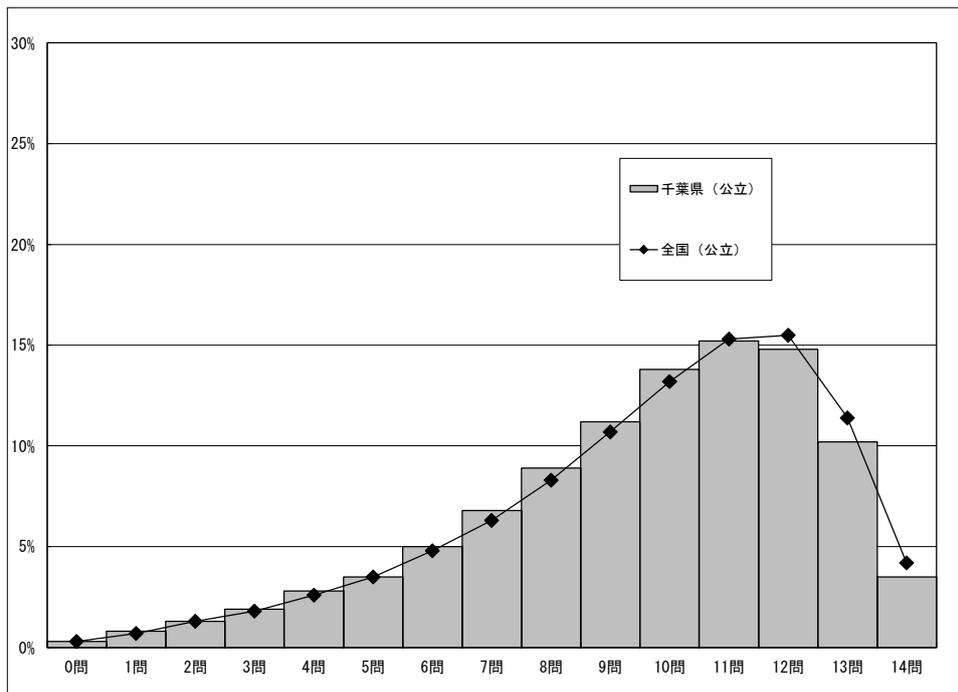
(2) 【中学校国語】

〈分類・区別集計結果〉

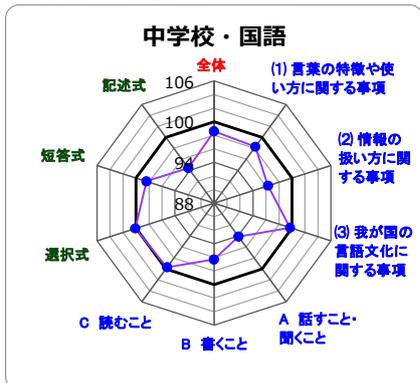
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		14	68	69.0	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	71.0	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	44.8	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	70.0	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	60.1	63.9
		B 書くこと	1	44.8	46.5
		C 読むこと	2	67.7	67.9
評価の観点	知識・技能	10	68.1	69.0	
	思考・判断・表現	6	60.1	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	73.8	73.7	
	短答式	5	69.2	70.3	
	記述式	3	54.2	57.4	

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,396	9.5 / 14	68	10.0	2.9
全国(公立)	891,820	9.7 / 14	69.0	10.0	2.9

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・国語		
領域	全体(活用)	98.6
	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	98.3
	(2) 情報の扱い方に関する事項	96.3
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	99.7
知識及び技能	A 話すこと・聞くこと	94.1
	B 書くこと	96.3
	C 読むこと	99.7
思考力・判断力・表現力等	選択式	100.1
	短答式	98.4
	記述式	94.4

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

## 〈調査結果(全国)のポイント〉

- 「書くこと」及び「情報の扱い方に関する事項」(学習指導要領に新設)に係る出題において、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことに課題がみられる。
- 「話すこと・聞くこと」に係る出題において、具体的な助言があればスピーチの表現を工夫することはできているが、話し方の工夫について自分で考えることに課題がみられる。

## 〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の内容					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
		(1) に関する事項	(2) に関する事項	(3) に関する事項	A	B												
1二	論理の展開などに注意して聞く				2エ							64.2	65.1	-0.9	0.2	0.1	0.1	
1三	自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話す	1ア			1ウ							45.0	51.8	-6.8	19.9	16.2	3.7	
2二①	文脈に即して漢字を正しく書く	2ウ										79.4	82.1	-2.7	10.3	8.8	1.5	
2三	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く		1イ		1ウ							44.8	46.5	-1.7	9.8	9.0	0.8	
3一	表現の技法について理解する	1オ										53.7	52.5	1.2	0.7	0.7	0.0	
3三	場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える					1イ						62.5	62.0	0.5	1.0	1.0	0.0	
3四	場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する					1ウ						72.9	73.8	-0.9	14.4	13.3	1.1	
4一	行書の特徴を理解する			1エ(イ)								40.7	39.4	1.3	1.1	0.9	0.2	

- ※課題となる設問とした基準
- ・平均正答率70%未満の設問
  - ・全国との差が5%以上の設問
  - ・無解答率が10%以上の設問

## 〈調査結果(千葉県)の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ1.0ポイント低い状況である。前回(令和3年度)の平均正答率は全国平均に比べ0.4ポイント高い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。

〈領域別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「言葉の特徴や使い方に関する事項」は1.7ポイント低く、「情報の扱い方に関する事項」は3.7ポイント低く、「話すこと・聞くこと」は5.9ポイント低く、「書くこと」は、3.7ポイント低い状況である。

○自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題がある。(設問1三)

○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことに課題がある。(設問2三)

○場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することに課題がある。(設問3四)

○行書の特徴を理解することに課題がある。(設問4一)

〈問題形式別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.1ポイント高く、「短答式」は1.6ポイント低く、「記述式」は5.6ポイント低い状況である。「記述式」は、無解答率が全国と比較してやや高い状況である。

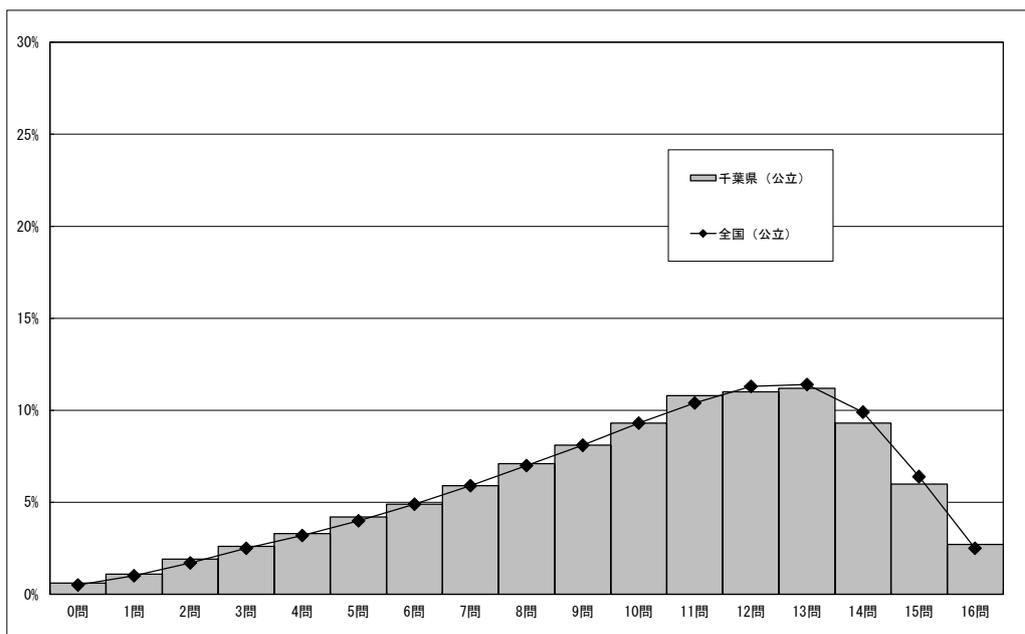
### (3) 【小学校算数】

〈分類・区別集計結果〉

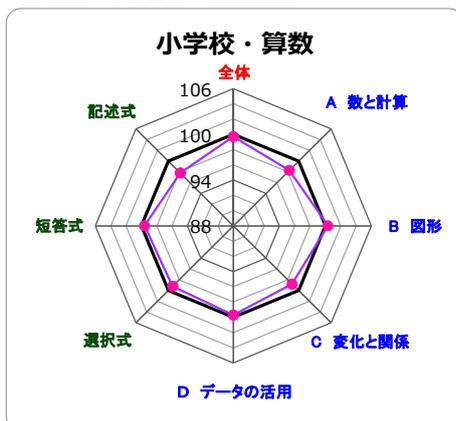
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		16	63	63.2
学習指導要領 の領域	A 数と計算	6	68.6	69.8
	B 図形	4	64.2	64.0
	C 測定	0		
	C 変化と関係	4	50.7	51.3
	D データの活用	3	68.5	68.7
評価の観点	知識・技能	9	67.8	68.2
	思考・判断・表現	7	55.8	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	6	51.4	51.8
	短答式	6	76.2	76.5
	記述式	4	58.9	60.2

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	48,437	10.0 / 16	63	11.0	3.7
全国(公立)	965,431	10.1 / 16	63.2	11.0	3.6

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・算数		
	全体(活用)	99.7
領域	A 数と計算	98.3
	B 図形	100.3
	C 測定	
	C 変化と関係	98.8
問題形式	D データの活用	99.7
	選択式	99.2
	短答式	99.6
	記述式	97.8

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

## 〈調査結果(全国)のポイント〉

○学習指導要領に新設された「データの活用」の領域において、表の各欄と合計欄の意味を理解してある項目に当たる数を求めることはできているが、目的に合う円グラフを選び、読み取った情報を答えることに課題がみられる。

○日常生活の場面に即して、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がみられる。

## 〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1(4)	示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる	4(2) 1(7)					○		○			32.5	34.8	-2.3	0.9	0.9	0.0	
2(2)	百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる				5(3) 7(4)	○			○			64.1	64.6	-0.5	3.7	3.3	0.4	
2(3)	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している				5(3) 7(7)	○			○			20.5	21.4	-0.9	1.1	1.1	0.0	
2(4)	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる				5(1) 1(7)	○			○			46.4	48.0	-1.6	6.0	5.5	0.5	
3(2)	分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる				3(1) 1(7)	○			○			64.5	63.9	0.6	1.7	1.6	0.1	
3(3)	目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる				5(1) 7(7)	○			○			65.7	66.8	-1.1	2.2	2.2	0.0	
3(4)	加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述できる	4(6) 7(7) 1(7)				○			○			66.9	67.7	-0.8	9.7	8.6	1.1	
4(1)	正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる		3(1) 7(7) 4(5) 7(7) 1(7)			○			○			48.3	48.8	-0.5	3.8	3.8	0.0	
4(3)	図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している		4(1) 7(4)			○			○			66.8	66.5	0.3	4.1	4.6	-0.5	
4(4)	示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、平行四辺形であることを判断できる		4(1) 7(4) 1(7)			○			○			58.3	57.6	0.7	4.6	5.1	-0.5	

※課題として取り上げた基準

- ・平均正答率70%未満の設問
- ・全国との差が5%以上の設問
- ・無解答率が10%以上の設問

## 〈調査結果(千葉県)の詳細〉

- 平均正答率は全国平均に比べ0.2ポイント低い状況である。前回(令和3年度)の平均正答率は全国平均に比べ0.2ポイント低い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。  
〈領域別〉
- 全国平均を100としたときの指数に比べ、「数と計算」は1.7ポイント低く、「変化と関係」は1.2ポイント低い状況である。
- 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。(設問1(4))
- 示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。(設問2(3))
- 伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。(設問2(4))
- 加法と乗法の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを記述することに課題がある。(設問3(4))
- 正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。(設問4(1))  
〈問題形式別〉
- 全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.8ポイント低く、「短答式」は0.4ポイント低く、「記述式」は2.2ポイント低い状況である。

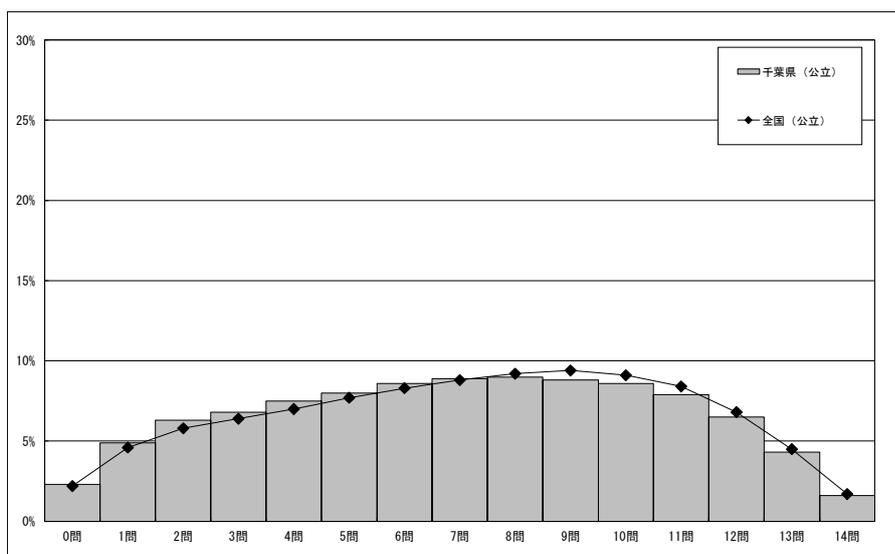
(4) 【中学校数学】

〈分類・区分別集計結果〉

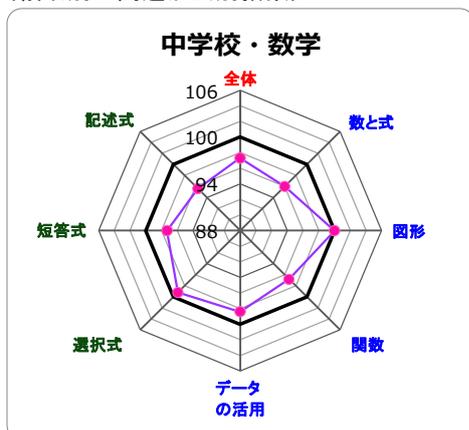
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		14	50	51.4
学習指導要領 の領域	A 数と式	5	55.1	57.4
	B 図形	3	43.6	43.6
	C 関数	3	42.2	43.6
	D データの活用	3	56.2	57.1
評価の観点	知識・技能	9	58.7	59.9
	思考・判断・表現	5	34.6	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	4	52.2	52.6
	短答式	5	63.9	65.7
	記述式	5	34.6	36.2

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,402	7.0 / 14	50	7.0	3.6
全国(公立)	891,913	7.2 / 14	51.4	7.0	3.6

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・数学		
	全体(活用)	97.3
領域	A 数と式	96.0
	B 図形	100.0
	C 関数	96.8
	D データの活用	98.4
問題形式	選択式	99.2
	短答式	97.3
	記述式	95.6

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

## 〈調査結果(全国)のポイント〉

- 「データの活用」の領域において、多数回の試行によって得られる確率の意味の理解には改善の傾向がみられる。一方、学習指導要領において統計的内容が充実したことを踏まえ初めて出題した「箱ひげ図」からデータの分布の特徴を読み取ることに課題がみられる。
- 「関数」の領域において、日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がみられる。

## 〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1	自然数を素数の積で表すことができる	1(1) ア、イ				○				○		45.6	52.2	-6.6	14.9	11.5	3.4
3	反例の意味を理解している		2(2) ア(イ)			○			○			45.3	44.9	0.4	0.4	0.4	0.0
4	一次関数の変化の割合の意味を理解している			2(1) ア(ア)		○			○			36.9	37.9	-1.0	0.4	0.4	0.0
6(2)	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) イ(イ)					○			○		45.7	48.7	-3.0	23.2	20.0	3.2
6(3)	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(1) イ(イ)					○			○		36.8	37.6	-0.8	29.6	26.2	3.4
7(1)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる			1(1) イ(ア)		○				○		42.2	44.0	-1.8	1.4	1.4	0.0
7(2)	箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる			2(1) ア(ア)		○			○			43.4	44.1	-0.7	0.8	0.7	0.1
8(1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる			1(1) ア(ウ) イ(イ)		○				○		53.3	54.6	-1.3	7.8	7.2	0.6
8(2)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			1(1) イ(イ)			○			○		36.3	38.4	-2.1	27.5	24.4	3.1
9(2)	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる		2(2) イ(イ)				○			○		12.1	12.5	-0.4	43.6	38.5	5.1

- ※課題として取り上げた基準
- ・平均正答率70%未満の設問
  - ・全国との差が5%以上の設問
  - ・無解答率が10%以上の設問

### 〈調査結果(千葉県)の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ1.4ポイント低い状況である。前回(令和3年度)の平均正答率は全国平均に比べ1.2ポイント低い状況であった。他の教科調査と比べ、平均正答率の全国平均との差が一番大きい。正答数の分布は、全国の状況と同様である。

#### 〈領域別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「数と式」は4.0ポイント低く、「関数」は3.2ポイント低く、「データの活用」は1.6ポイント低い状況である。

○自然数を素数の積で表すことに課題がある。(設問1)

○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。(設問6(2))

○結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。(設問6(3))

○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。(設問8(2))

○筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。(設問9(2))

#### 〈問題形式別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.8ポイント低く、「短答式」は2.7ポイント低く、「記述式」は4.4ポイント低い状況である。「記述式」は、全国と比較して無解答率が高い状況である。

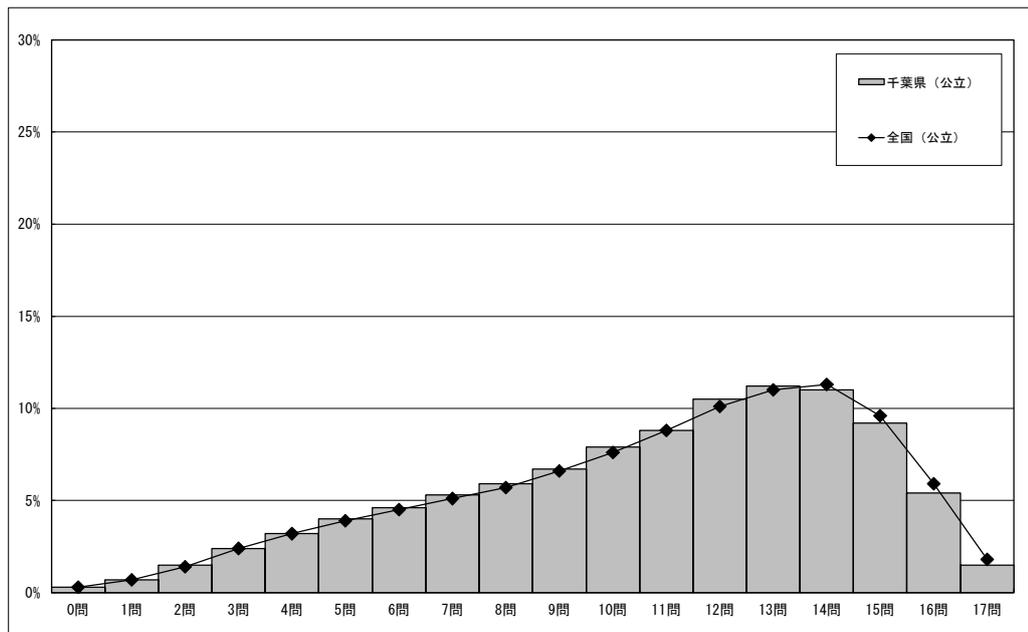
(5) 【小学校理科】

〈分類・区別集計結果〉

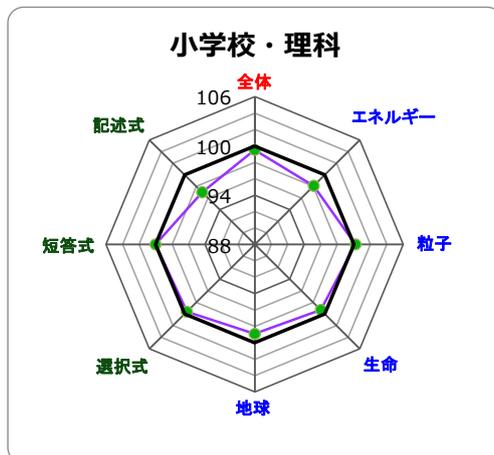
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			千葉県(公立)	全国(公立)	
全体		17	63	63.3	
学習指導 要領の 区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	50.6	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	60.5	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	74.5	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	63.9	64.6
評価の観点	知識・技能		6	62.3	62.5
	思考・判断・表現		11	63.0	63.7
	主体的に学習に取り組む態度		0		
問題形式	選択式		11	66.5	66.8
	短答式		3	66.2	66.2
	記述式		3	45.9	47.3

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	48,465	10.7 / 17	63	11.0	3.8
全国(公立)	965,761	10.8 / 17	63.3	11.0	3.8

〈小学校理科の児童の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



小学校・理科		
	全体(活用)	指数
領域	「エネルギー」を柱とする領域	98.1
	「粒子」を柱とする領域	100.2
	「生命」を柱とする領域	99.3
	「地球」を柱とする領域	98.9
問題形式	選択式	99.6
	短答式	100.0
	記述式	97.0

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果(全国)のポイント〉

- 学習指導要領で重視されている問題解決の力を踏まえて初めて出題した「問題の見だし」(身の回りの生物や物の溶け方に関すること)については、気付いたことを基に分析して解釈し、適切な問題を見出すことに課題がみられる。
- 観察、実験などに関する技能については、実験の過程や得られた結果を適切に記録したものを選ぶことはできている。一方、自然の現象(水の状態変化)については、知識を日常生活に関連付けて理解することに引き続き課題がみられる。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の区分・領域		評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)				
		A区分		B区分		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
		柱とする領域	「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域												
1(2)	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			3B (1)ア (イ)※		○				○	67.2	67.5	-0.3	5.5	5.0	0.5	
1(5)	観察などで得た結果を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる			3B (1)ア (ア)※		○		○			64.9	65.5	-0.6	1.5	1.4	0.1	
2(1)	メシリンダーという器具を理解している			5A (1)ア (ウ)※		○			○		69.0	67.8	1.2	10.5	9.8	0.7	
2(3)	自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる			4A (2)ア (ウ)※ 5A (1)ア (ウ)※		○		○			64.2	62.8	1.4	0.9	1.0	-0.1	
2(4)	自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる			4A (2)ア (ウ)※ 5A (1)ア (ウ)※		○				○	36.8	39.3	-2.5	10.0	8.7	1.3	
3(1)	日光は直進することを理解している	3A (3)ア (ア)※				○			○		26.7	27.8	-1.1	0.6	0.6	0.0	
3(3)	自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し、自分の考えをもつことができる	3A (2)ア (ア)※			3B (2)ア (ア)※	○			○		67.9	68.9	-1.0	5.5	5.1	0.4	
3(4)	実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる	3A (3)ア (ア)※				○				○	33.6	35.1	-1.5	12.3	11.2	1.1	
4(2)	予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができる				4B (4)ア (ア)※	○			○		61.5	64.5	-3.0	1.1	1.3	-0.2	
4(3)	観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる				4B (4)ア (ア)※	○			○		45.2	45.5	-0.3	7.1	6.5	0.6	
4(4)	水是水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している	4A (2)ア (ウ)※			4B (4)ア (イ)※	○			○		61.7	62.0	-0.3	6.6	6.2	0.4	

- ※課題として取り上げた基準
- ・平均正答率70%未満の設問
  - ・全国との差が5%以上の設問
  - ・無解答率が10%以上の設問

### 〈調査結果(千葉県)の詳細〉

- 平均正答率は全国平均に比べ0.3ポイント低い状況である。前回(平成30年度)の平均正答率は全国平均に比べ0.7ポイント高い状況であった。正答数の分布は、全国の状況と同様である。
- 〈領域別〉
- 全国平均を100としたときの指数に比べ「エネルギー」を柱とする領域は1.9ポイント低く、「地球」を柱とする領域は1.1ポイント低い状況である。
  - 実験器具について理解することに課題がある。(設問2(1))
  - 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述することに課題がある。(設問2(4))
  - 日光は直進することを理解することに課題がある。(設問3(1))
  - 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持ち、その内容を記述することに課題がある。(設問3(4))
  - 観察などで得た結果を、結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことに課題がある。(設問4(3))
- 〈問題形式別〉
- 全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は0.4ポイント低く、「短答式」は同等、「記述式」は3.0ポイント低い状況である。「記述式」は、全国と比較して無解答率が高い状況である。

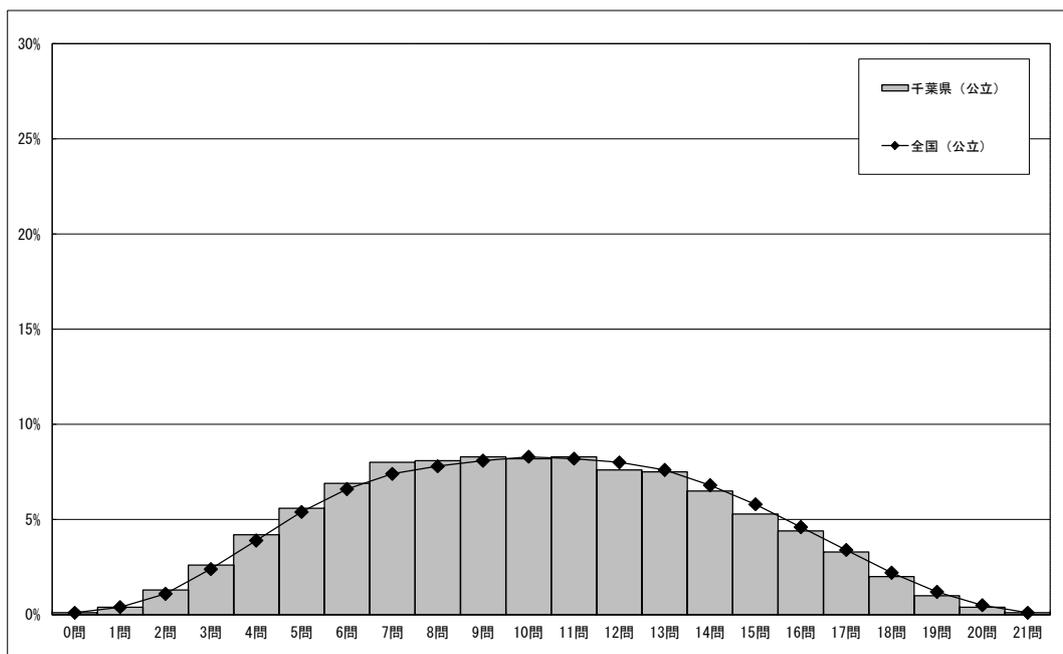
## (6) 【中学校理科】

〈分類・区別集計結果〉

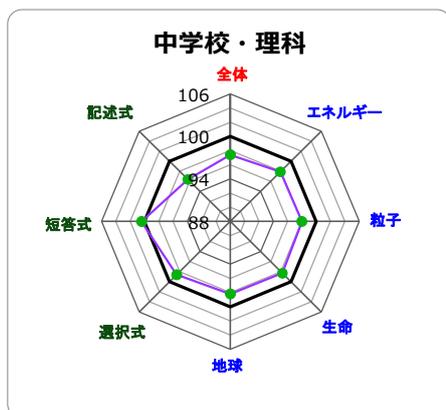
分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)	
			千葉県(公立)	全国(公立)
全体		21	48	49.3
学習指導要領 の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	41.0	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	49.9	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	56.9	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	43.5	44.3
評価の観点	知識・技能	7	45.1	46.1
	思考・判断・表現	14	50.0	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0		
問題形式	選択式	15	48.9	49.6
	短答式	1	24.9	24.8
	記述式	5	51.6	53.5

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)	中央値	標準偏差
千葉県(公立)	44,411	10.2 / 21	48	10.0	4.1
全国(公立)	892,585	10.4 / 21	49.3	10.0	4.1

〈中学校理科の生徒の正答数分布グラフ〉



〈領域別・問題形式別指数〉



中学校・理科		
領域	全体(活用)	97.4
	「エネルギー」を柱とする領域	97.9
	「粒子」を柱とする領域	98.0
	「生命」を柱とする領域	98.3
問題形式	「地球」を柱とする領域	98.2
	選択式	98.6
	短答式	100.4
	記述式	96.4

・上のチャートと表は、全国を100としたときの指数で千葉県を表しています。

〈調査結果(全国)のポイント〉

- 学習指導要領において科学的に探究する学習が重視されていることを踏まえ、探究の過程における検討や改善を問う設問について、他者の考えの妥当性を検討したり、実験の計画が適切か検討して改善したりすることに課題がみられた分野がある（力の働き、天気の変化等）。
- 過去に課題がみられた実験の計画における条件の制御については、改善の状況がみられる。

〈課題がみられる設問〉

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率(%)			無解答率(%)		
		「エネルギー」を柱とする領域	「粒子」を柱とする領域	「生命」を柱とする領域	「地球」を柱とする領域	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差	千葉県(公立)	全国(公立)	全国との差
1(1)	日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる	(3) (ア)				○			○			43.9	44.2	-0.3	0.1	0.1	0.0
2(1)	観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を考える学習場面において、観測地の標高を空間的に捉え、気圧の概念を空気の柱で説明できるか問うことで、気圧に関する知識及び技能を身に付けているかどうかをみる				(4) (ア)	○			○			54.4	54.2	0.2	0.2	0.2	0.0
2(2)	継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる				(4) (イ)	○			○			39.9	40.8	-0.9	0.3	0.3	0.0
2(3)	飛行機雲の残りを科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる				(4) (イ)	○			○			27.5	28.5	-1.0	0.3	0.3	0.0
3(2)	水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる		(4) (イ)			○			○			57.8	60.2	-2.4	0.3	0.3	0.0
3(3)	化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈できるかどうかをみる	(3) (ア)	(4) (イ)			○			○			24.9	24.8	0.1	4.8	4.3	0.5
4(2)	複数の脊椎動物の外部形態の考察を行う場面において、あしの骨格について共通性と多様性の見方を働かせながら比較し、共通点と相違点を分析して解釈できるかどうかをみる			(1) (イ)		○			○			66.1	65.6	0.5	0.2	0.2	0.0
5(1)	力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる	(1) (イ)				○			○			16.0	15.3	0.7	0.2	0.2	0.0
5(2)	課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる	(1) (イ)				○			○			43.4	45.0	-1.6	0.5	0.4	0.1
5(3)	考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験の計画を検討して改善できるかどうかをみる	(1) (イ)				○			○			39.6	43.3	-3.7	32.9	29.4	3.5
6(1)	玄武岩の露頭で化石が観察できるかを問うことで、岩石に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる				(2) (ア)	○			○			45.4	48.0	-2.6	0.3	0.3	0.0
6(2)	過去の大地の変動について、垂直方向の移動だけで推論した他者の考察を、水平方向の移動も踏まえて、検討して改善できるかどうかをみる				(2) (イ)	○			○			60.3	60.3	0.0	0.6	0.6	0.0
6(3)	地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈できるかどうかをみる				(2) (イ)	○			○			33.8	34.2	-0.4	0.8	0.7	0.1
7(1)	液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を問うことで、状態変化に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる		(2) (ウ)			○			○			36.6	35.9	0.7	0.4	0.4	0.0
7(2)	実験の結果が考察の根拠として十分かどうかを検討し、必要な実験を指摘して、実験の計画を改善できるかどうかをみる		(2) (ウ)			○			○			53.7	53.4	0.3	1.2	1.0	0.2
8(1)	アリの行列のつくり方を探究する場面において、視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことができるかどうかをみる			(3) (ウ)		○			○			53.1	55.2	-2.1	13.3	11.6	1.7
8(2)	予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見直しをもつことができるかどうかをみる			(3) (ウ)		○			○			54.2	55.1	-0.9	16.9	14.9	2.0
8(3)	未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる			(1) (イ)		○			○			38.5	39.2	-0.7	1.4	1.4	0.0

※課題となる設問とした基準 ・平均正答率70%未満の設問  
 ・全国との差が5%以上の設問  
 ・無解答率が10%以上の設問

## 〈調査結果(千葉県)の詳細〉

○平均正答率は全国平均に比べ1.3ポイント低い状況である。前回(平成30年度)の平均正答率は全国平均に比べ1.1ポイント低い状況であった。他の教科調査と比べ、平均正答率の全国平均との差が大きい。正答数の分布は、全国の場合と同様である。

### 〈領域別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「エネルギー」を柱とする領域は2.1ポイント低く、「粒子」を柱とする領域は2.0ポイント低く、「生命」を柱とする領域は1.7ポイント低い、「地球」を柱とする領域は1.8ポイント低い状況である。

○科学的に探究する学習場面において、観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。(設問2(3))

○課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能に課題がある。(設問5(2))

○考察の妥当性を高めるために、測定値の増やし方について、測定する範囲と刻み幅の視点から実験計画を検討して改善することに課題がある。(設問5(3))

○岩石に関する知識及び技能を活用することに課題がある。(設問6(1))

○実験の結果を分析して解釈し、課題に正対した考察を行うことに課題がある。(設問8(1))

○予想や仮説と異なる結果が出る場合について、結果の意味を考え、観察、実験の操作や条件の制御などの探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことに課題がある。(設問8(2))

### 〈問題形式別〉

○全国平均を100としたときの指数に比べ「選択式」は1.4ポイント低く、「短答式」は0.4ポイント高く、「記述式」は3.6ポイント低い状況である。「記述式」は、全国と比較して無解答率が高い状況である。

## 4 質問紙に関する調査結果（児童生徒、学校）

※ 特に断りがない場合、いずれのグラフも「その他」、「無回答」の数値は表示していない。

### 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか」の質問に、肯定的に回答した学校ほど各教科の平均正答率が高い。

【学校質問紙23】

○「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問紙39】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると小学校で6.7ポイント低い。昨年度と比較すると小学校で8.5ポイント、中学校で2.7ポイント増加した。

【学校質問紙26】

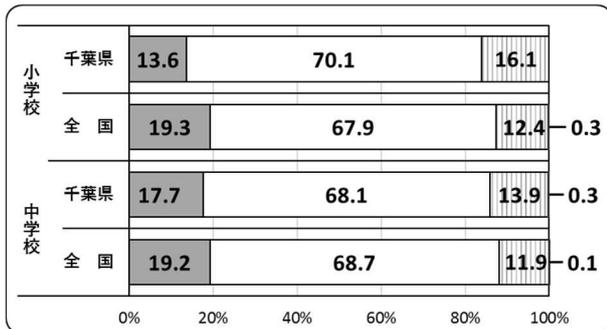
○「学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問紙43】

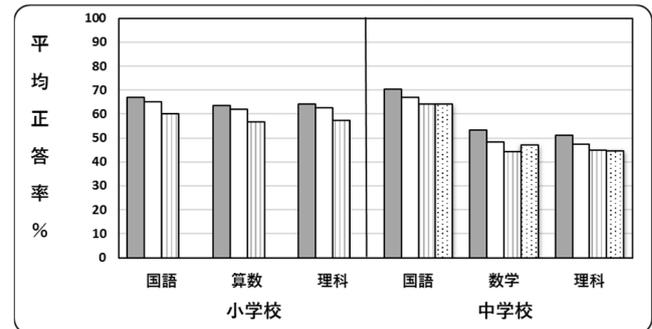
【学校質問紙23】 調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

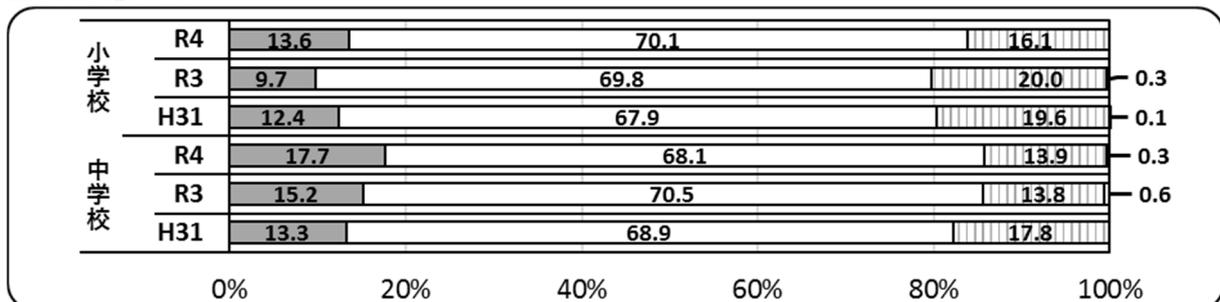
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



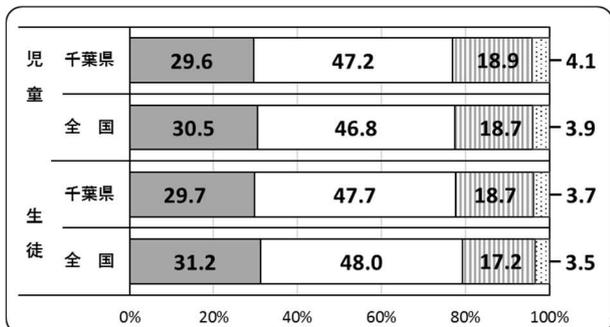
〈経年変化\_本県〉



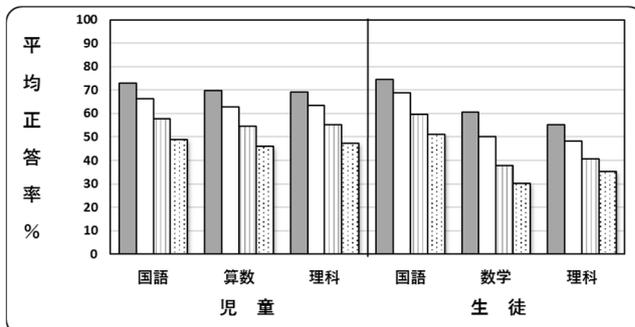
【児童生徒質問紙39】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

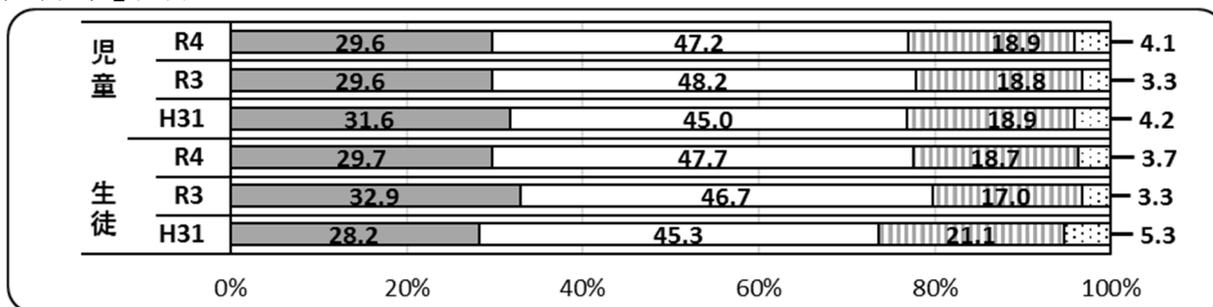
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



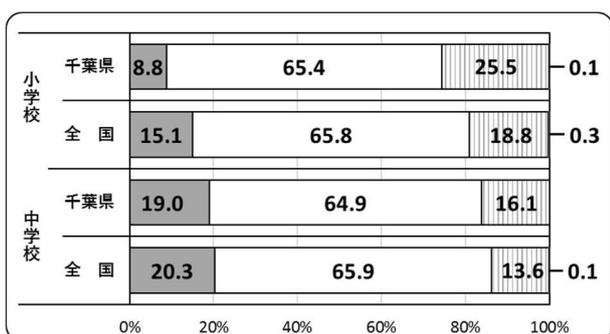
〈経年変化\_本県〉



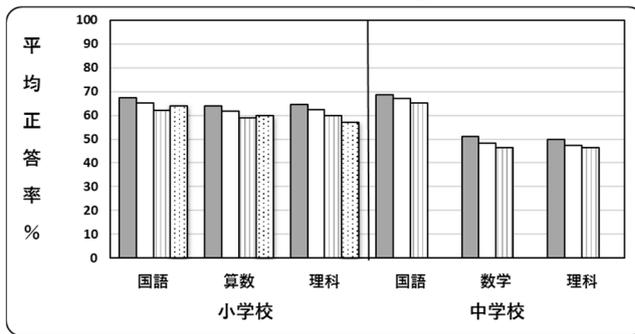
【学校質問紙26】調査対象学年の児童〔生徒〕は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる ▨ どちらかといえば、当てはまらない ▩ 当てはまらない

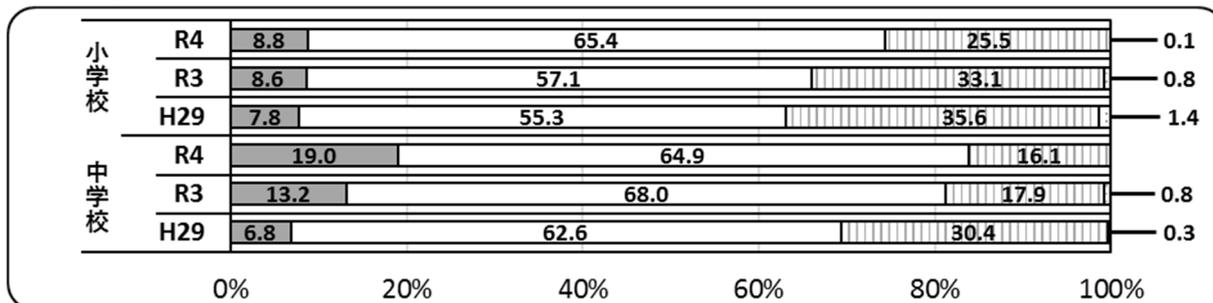
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



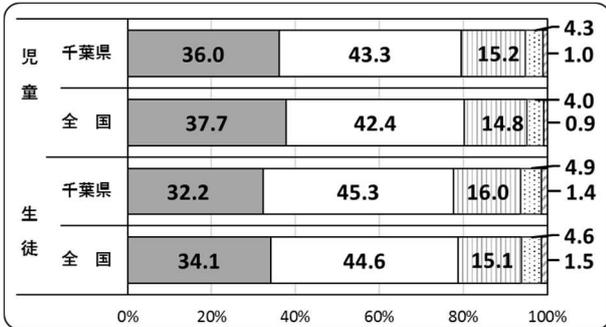
〈経年変化\_本県〉



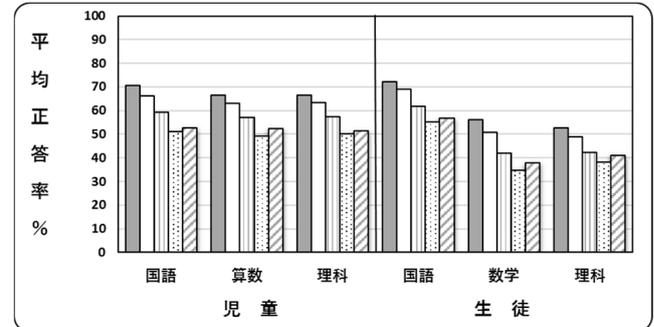
【児童生徒質問紙43】学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない  
 学級の友達〔生徒〕との間で話し合う活動を行っていない

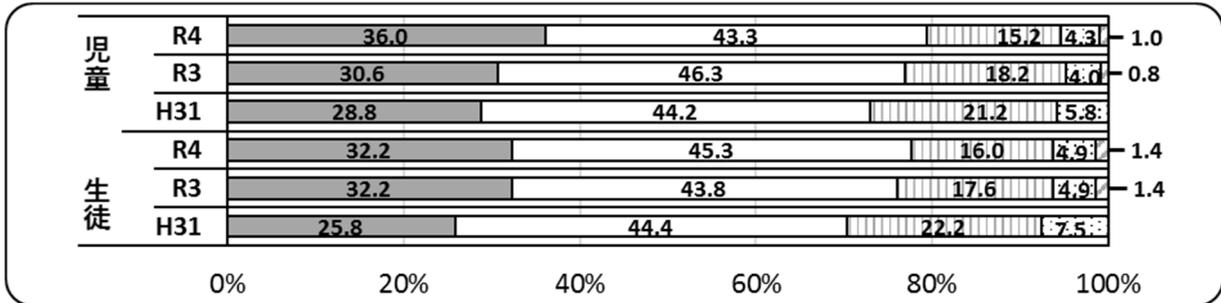
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



○「調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較して小学校で12.7ポイント、中学校で4.4ポイント増加したが、小学校では全国と比較すると5.2ポイント低い。

【学校質問紙24】

○「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」の質問に、肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。

【児童生徒質問紙38】

○「児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、全国と比較すると小学校で4.1ポイント、中学校で7.8ポイント低い。

【学校質問紙20】

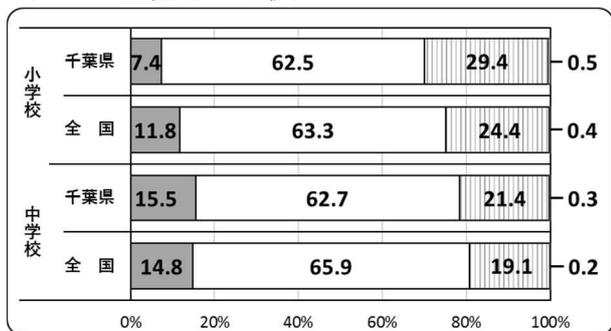
○「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると小学校で4.8ポイント、中学校で5.6ポイント増加した。

【学校質問紙29】

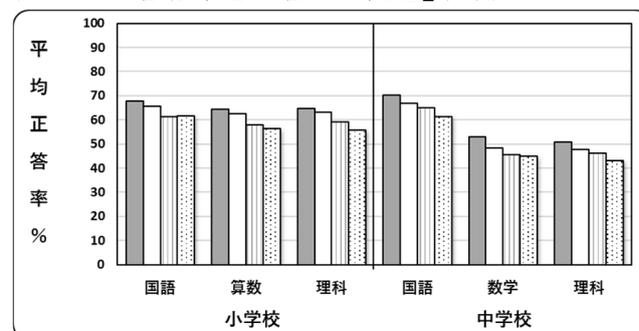
【学校質問紙24】調査対象学年の児童〔生徒〕は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか

■ そう思う    □ どちらかといえば、そう思う    ▨ どちらかといえば、そう思わない    ▩ そう思わない

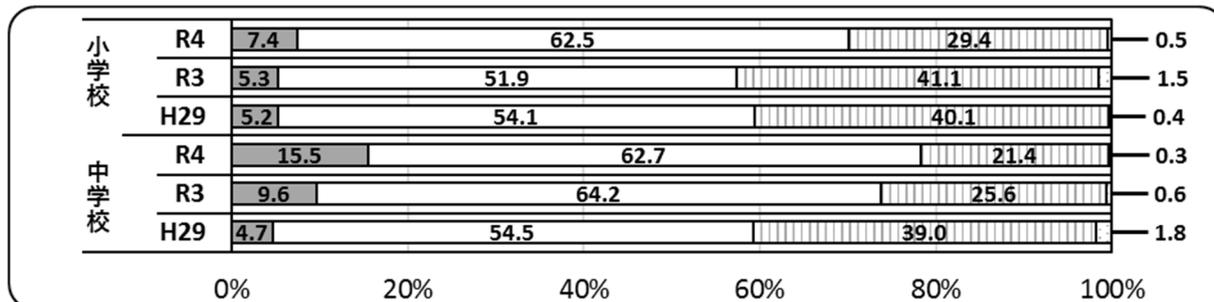
〈R4 全国との比較〉



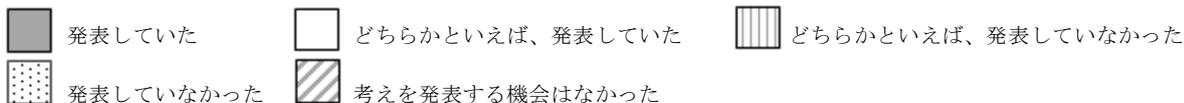
〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



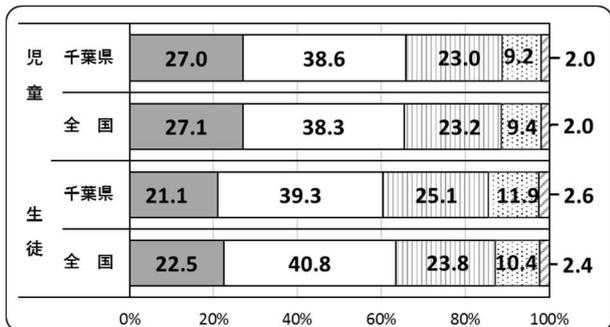
〈経年変化\_本県〉



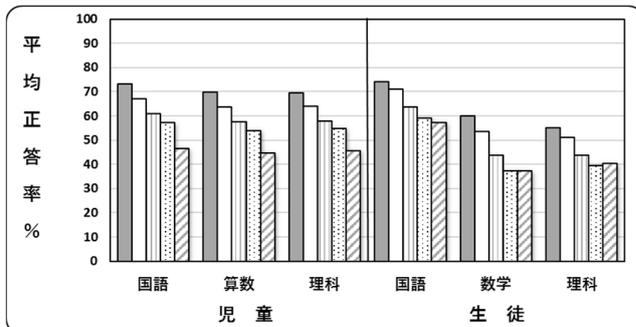
【児童生徒質問紙38】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



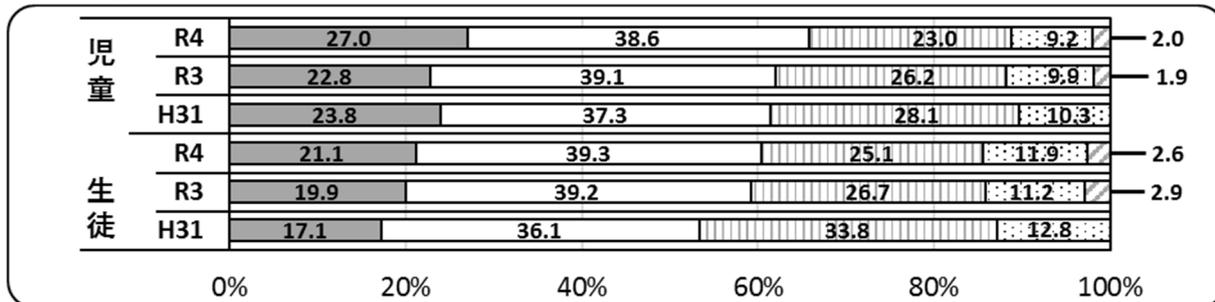
〈R4 全国との比較〉



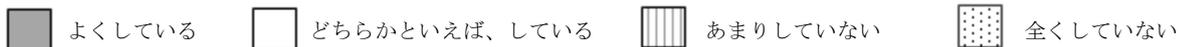
〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



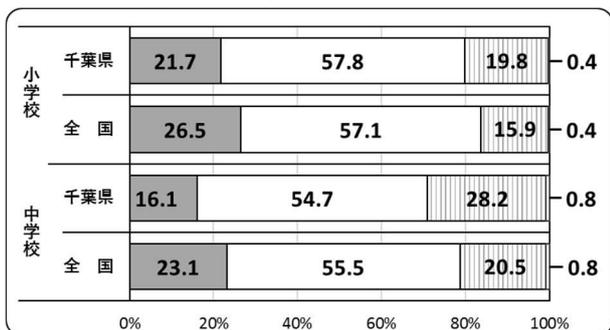
〈経年変化\_本県〉



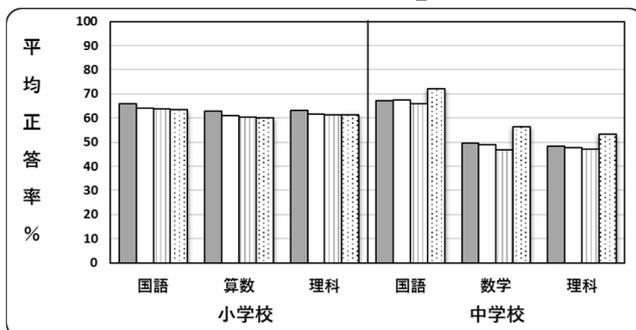
【学校質問紙20】児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか



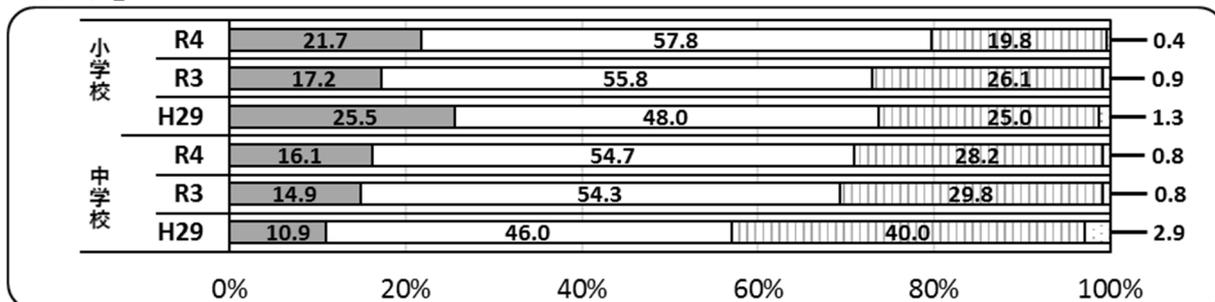
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



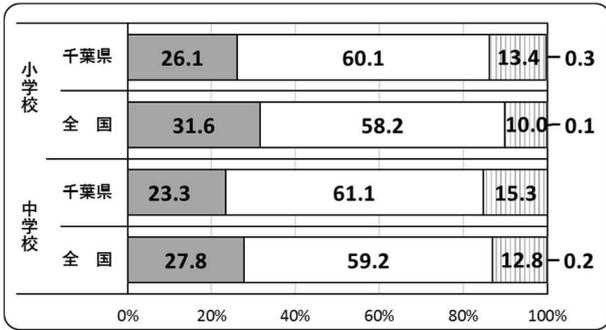
〈経年変化\_本県〉



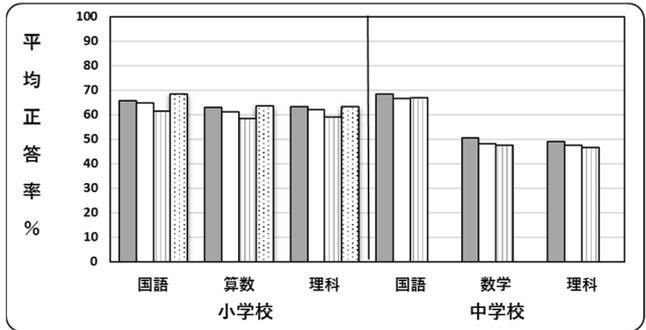
【学校質問紙29】 調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、授業において、児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

よく行った
  どちらかといえば、行った
  あまり行わなかった
  全く行わなかった

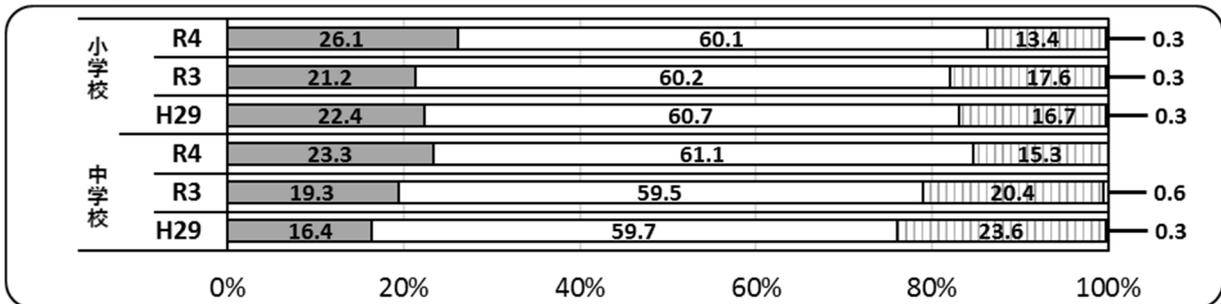
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



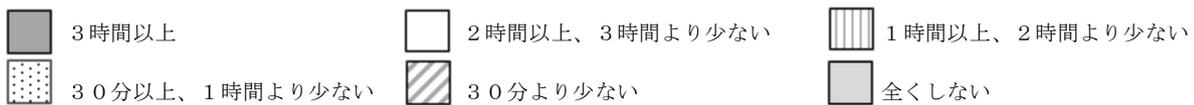
〈経年変化\_本県〉



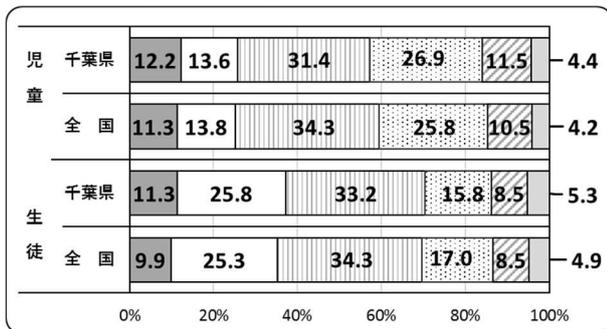
## 児童生徒の学習時間、教科に対する興味・関心

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」【児童生徒質問紙2 1】
  - 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」【児童生徒質問紙2 2】
- 上記2つの質問への回答結果と正答率の関連をみると、学習時間が多く確保できている児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。
- 「各教科（国語、算数〔数学〕、理科）の勉強は好きですか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると、小学校国語、小学校理科を除き低い。【児童生徒質問紙4 9】【児童生徒質問紙5 3】【児童生徒質問紙6 1】
  - 「各教科の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対する肯定的回答の割合が、全国と比較すると、小学校理科を除き低い。【児童生徒質問紙5 1】【児童生徒質問紙5 5】【児童生徒質問紙6 3】

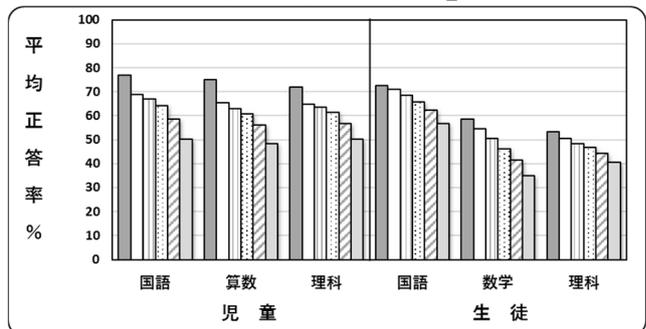
【児童生徒質問紙2 1】学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



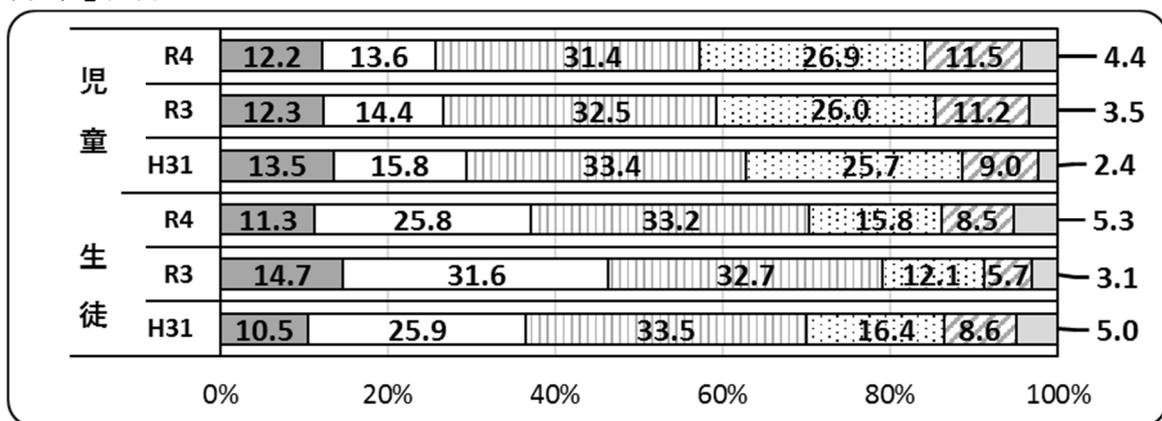
〈R 4 全国との比較〉



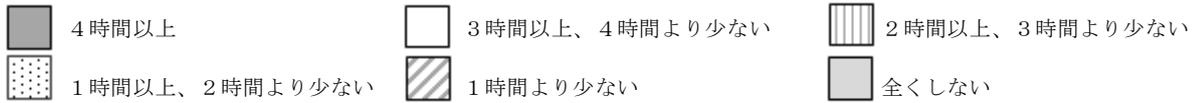
〈R 4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



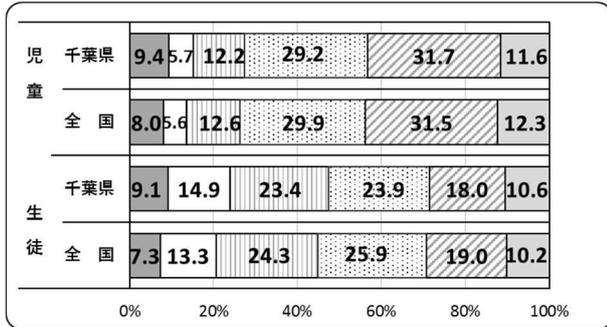
〈経年変化\_本県〉



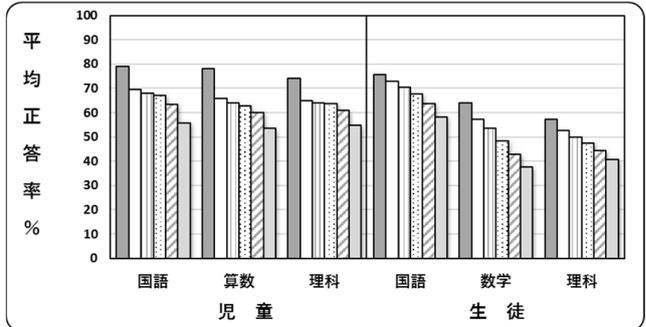
【児童生徒質問紙22】土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



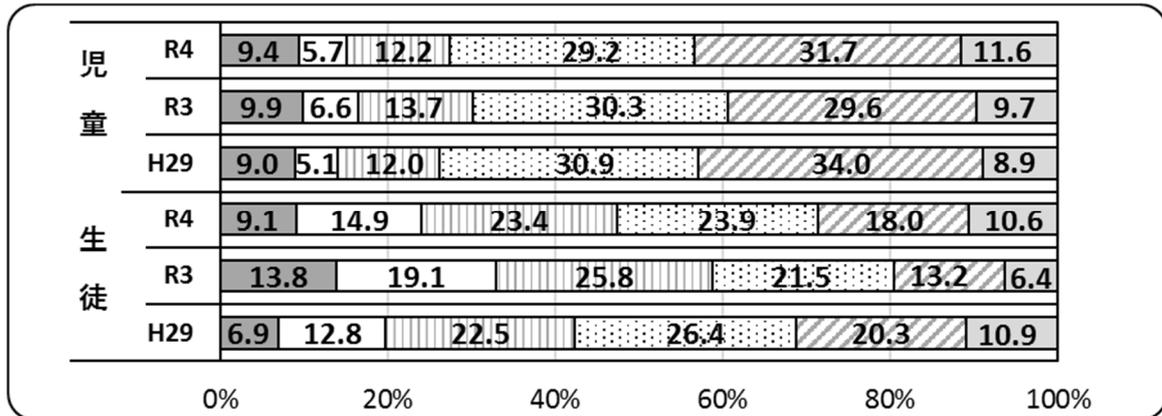
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



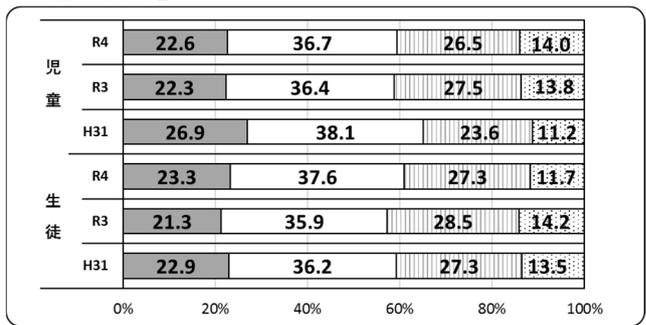
【児童生徒質問紙49】国語の勉強は好きですか



〈R4 全国との比較〉



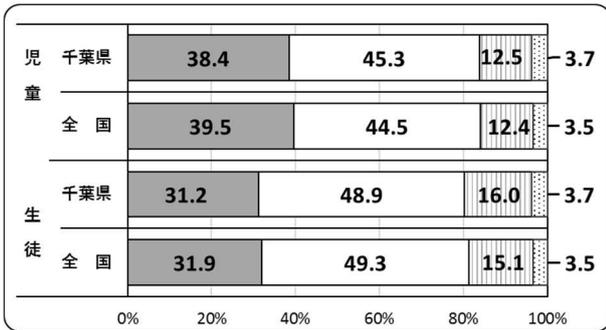
〈経年変化\_本県〉



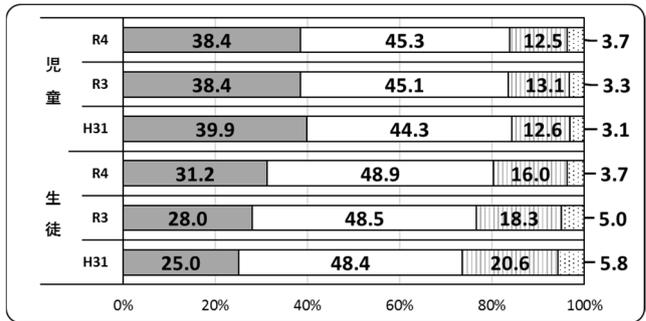
【児童生徒質問紙 5 1】国語の授業の内容はよくわかりますか

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない

〈R 4 全国との比較〉



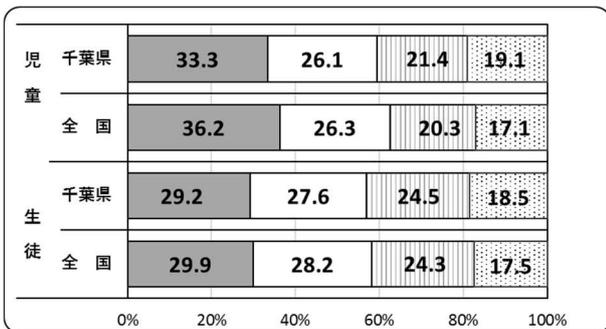
〈経年変化\_本県〉



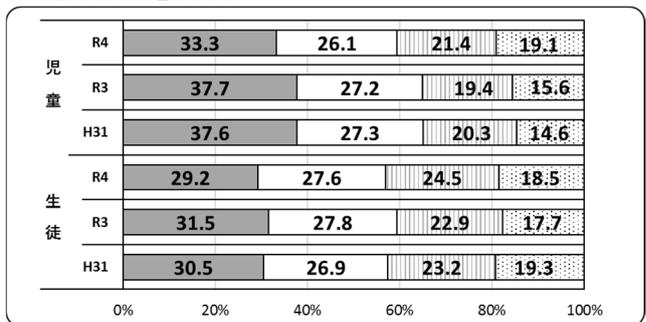
【児童生徒質問紙 5 3】算数〔数学〕の勉強は好きですか

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない

〈R 4 全国との比較〉



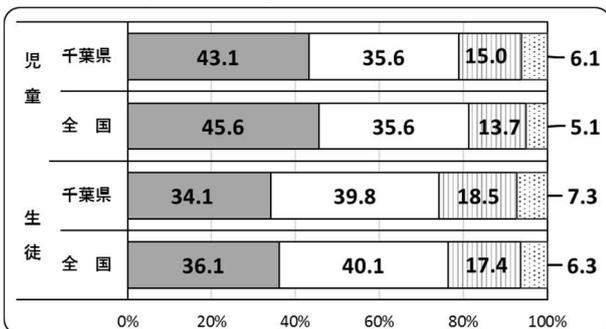
〈経年変化\_本県〉



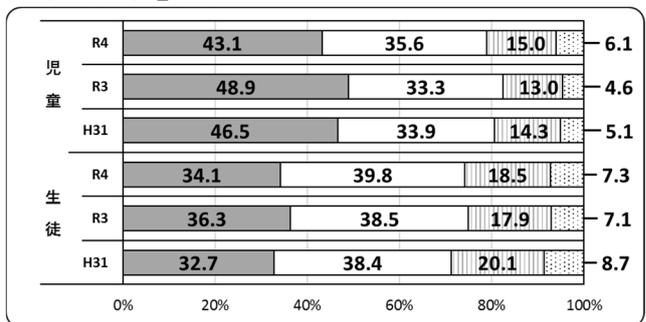
【児童生徒質問紙 5 5】算数〔数学〕の授業の内容はよくわかりますか

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない

〈R 4 全国との比較〉



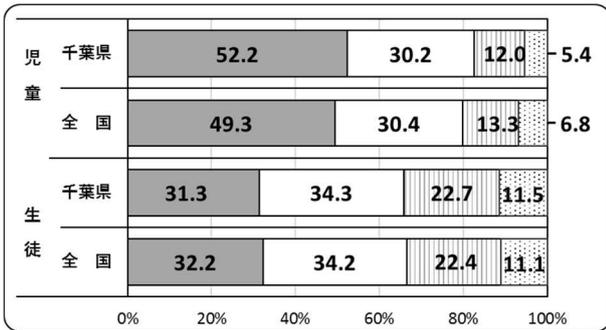
〈経年変化\_本県〉



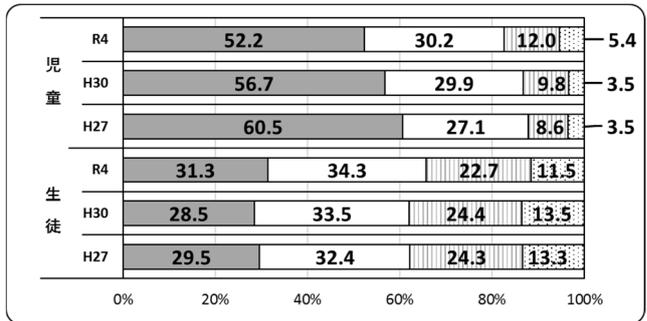
【児童生徒質問紙 6 1】理科の勉強は好きですか

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない

〈R 4 全国との比較〉



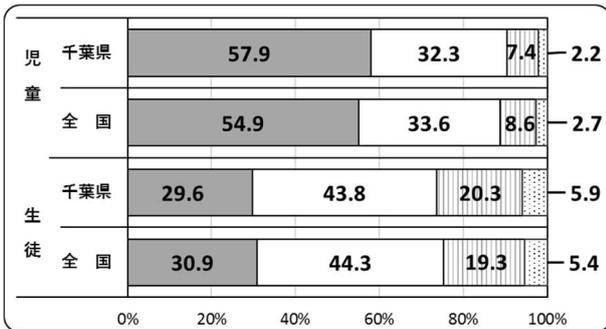
〈経年変化\_本県〉



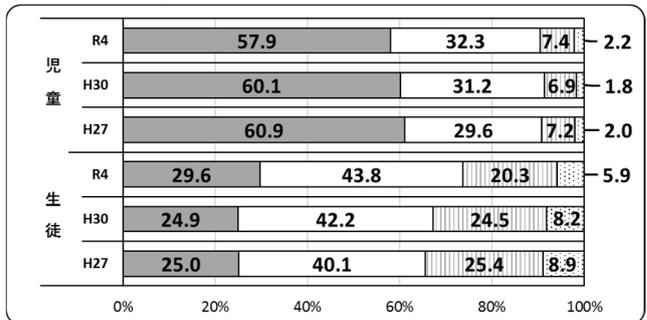
【児童生徒質問紙 6 3】理科の授業の内容はよく分かりますか

当てはまる
  どちらかといえば、当てはまる
  どちらかといえば、当てはまらない
  当てはまらない

〈R 4 全国との比較〉



〈経年変化\_本県〉



## ICTを活用した学習状況（ICTの活用頻度）

○「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対し「ほぼ毎日」と回答した割合は、昨年度と比較すると小学校で12.6ポイント、中学校で9.3ポイント増加した。

【児童生徒質問紙32】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか」の質問に対し「ほぼ毎日」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で7.9ポイント、中学校で8.6ポイント低い。

【学校質問紙59(小)57(中)】

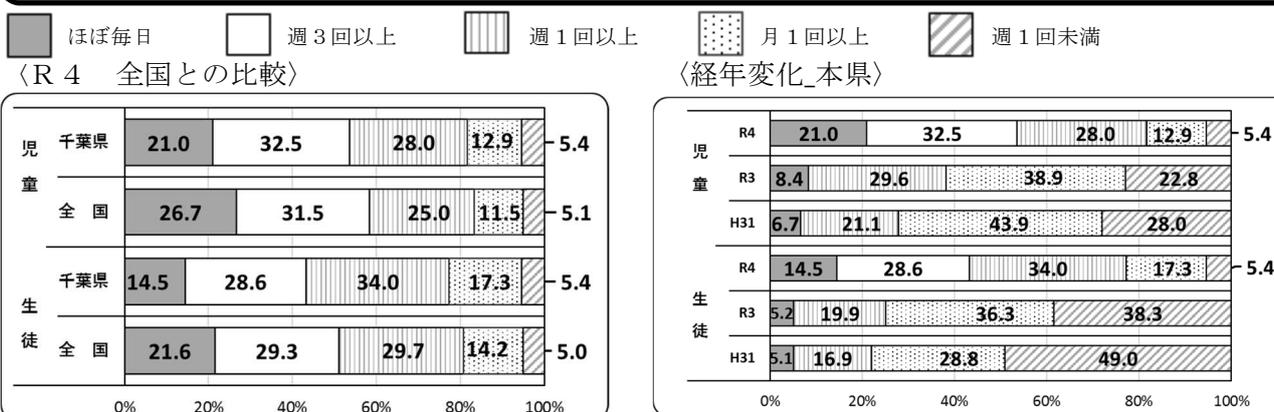
○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、小学校中学校共に90%を超えている。

【児童生徒質問紙36】

○「児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか」の質問に対し、「毎日持ち帰って、毎日利用させている」「毎日持ち帰って、時々利用させている」「時々持ち帰って、時々利用させている」と回答した学校の割合は、昨年度と比べて増加した。「臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている」の回答も合わせると、小学校で96.2%、中学校で88.8%である。

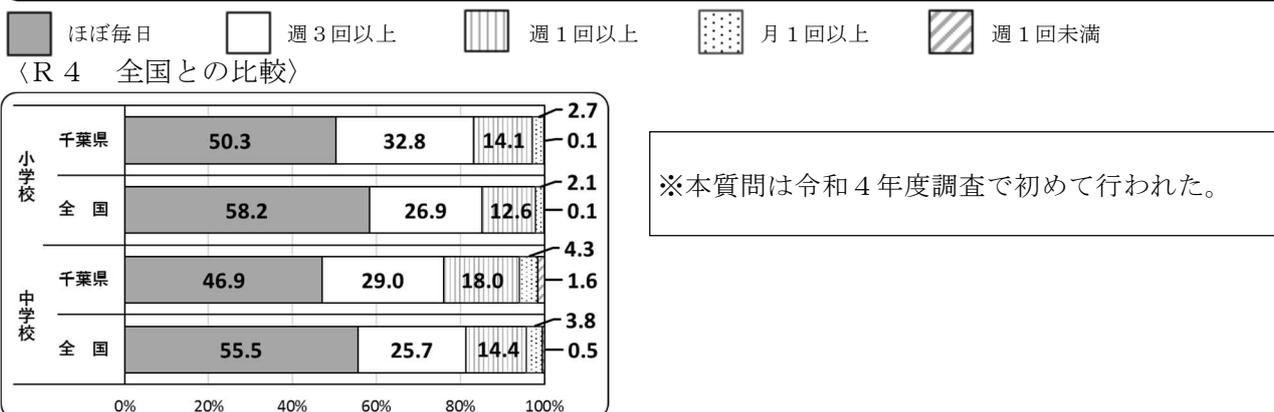
【学校質問紙66(小)64(中)】

【児童生徒質問紙32】5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



※平成31年度及び令和3年度においては、「ほぼ毎日」、「週1回以上」、「月1回以上」、「月1回未満」の選択肢であったため、「週3回以上」と回答した学校がない。

【学校質問紙59(小)57(中)】調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



※本質問は令和4年度調査で初めて行われた。

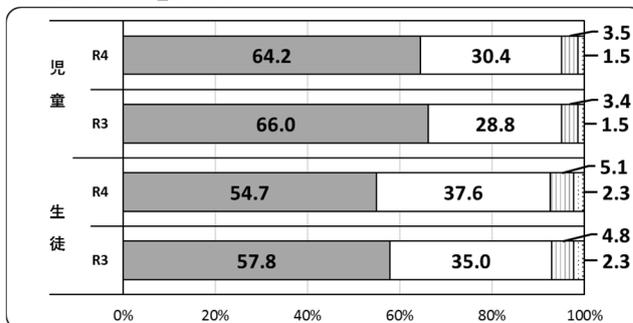
【児童生徒質問紙36】学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つかと思いますか

- 役に立つと思う
- どちらかといえば、役に立つと思う
- どちらかといえば、役に立たないと思う
- 役に立たないと思う

〈R4 全国との比較〉



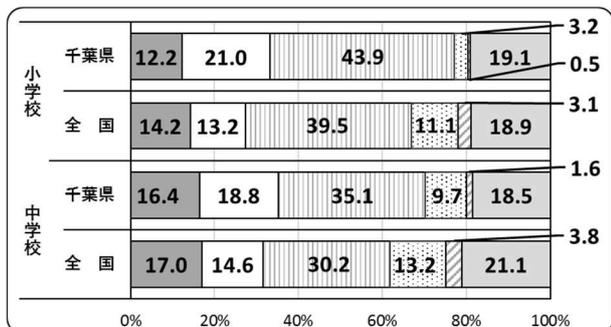
〈経年変化\_本県〉



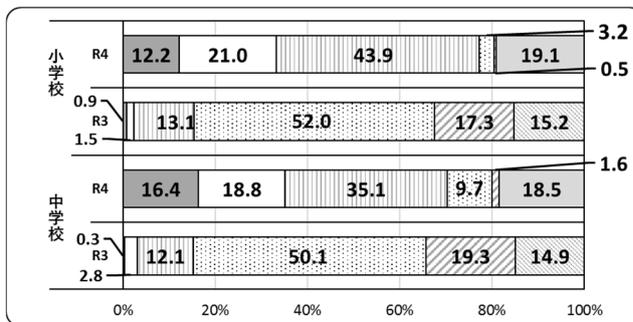
【学校質問紙66(小)64(中)】児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

- 毎日持ち帰って、毎日利用させている
- 毎日持ち帰って、時々利用させている
- 時々持ち帰って、時々利用させている
- 持ち帰らせていない
- 持ち帰ってはいけないこととしている
- 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている
- その他、無回答

〈R4 全国との比較〉



〈経年変化\_本県〉



※令和3年度においては「毎日持ち帰って、毎日利用させている」、「毎日持ち帰って、時々利用させている」、「時々持ち帰って、時々利用させている」、「持ち帰らせていない」、「持ち帰ってはいけないこととしている」、「まだ配備されていない」の選択肢であったため、「臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている」と回答した学校がない。令和3年度調査で「まだ配備されていない」と回答した学校については、「その他、無回答」に分類して集計している。

## ICTを活用した学習状況（場面ごとの使用頻度）

○「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、小学校は94%、中学校は88.5%である。

【学校質問紙60(小)58(中)】

○「教職員と調査対象学年の児童〔生徒〕がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で7.9ポイント、中学校で10.0ポイント低い。

【学校質問紙62(小)60(中)】

○「調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で9.2ポイント、中学校で8.2ポイント低い。

【学校質問紙61(小)59(中)】

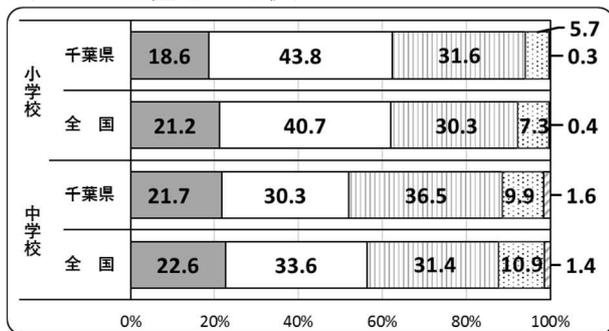
○「調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか」の質問に対し、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると小学校で10.4ポイント、中学校で11.9ポイント低い。

【学校質問紙63(小)61(中)】

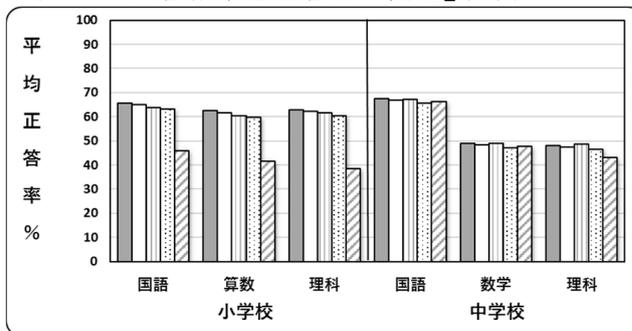
【学校質問紙60(小)58(中)】 調査対象学年の児童〔生徒〕が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

■ ほぼ毎日 □ 週3回以上 ▨ 週1回以上 ▩ 月1回以上 ▧ 週1回未満

〈R4 全国との比較〉



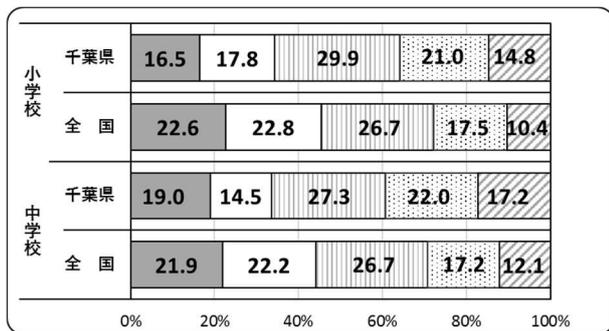
〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



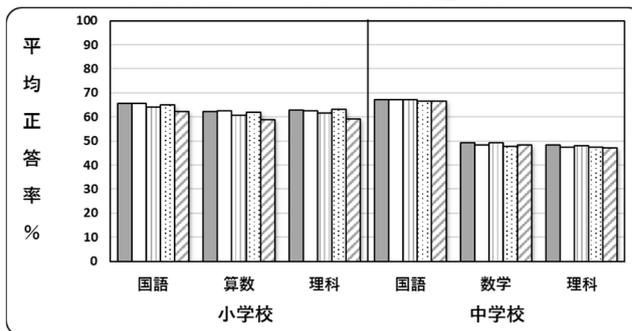
【学校質問紙62(小)60(中)】 教職員と調査対象学年の児童〔生徒〕がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

■ ほぼ毎日 □ 週3回以上 ▨ 週1回以上 ▩ 月1回以上 ▧ 週1回未満

〈R4 全国との比較〉



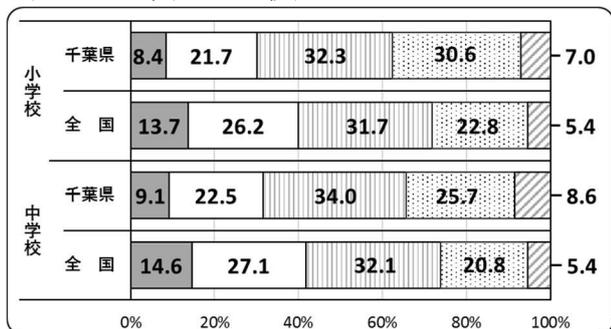
〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



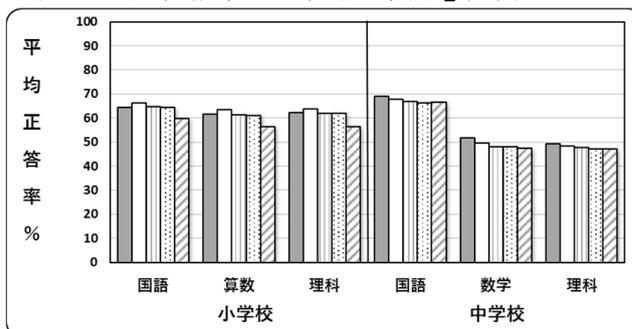
【学校質問紙6 1(小)5 9(中)】 調査対象学年の児童〔生徒〕が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

ほぼ毎日
  週3回以上
  週1回以上
  月1回以上
  週1回未満

〈R 4 全国との比較〉



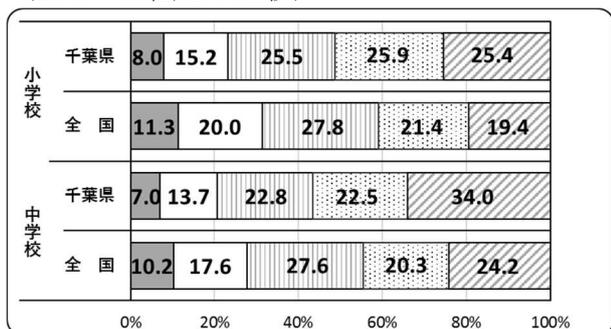
〈R 4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



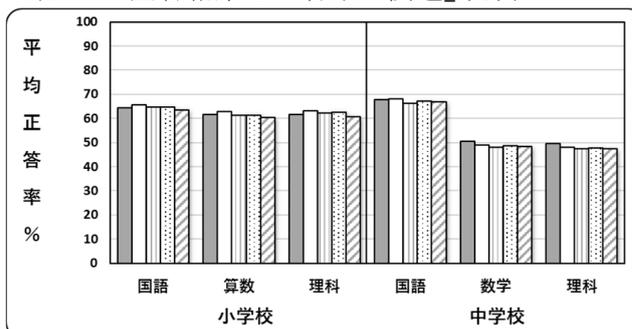
【学校質問紙6 3(小)6 1(中)】 調査対象学年の児童〔生徒〕同士がやりとりする場面では、児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

ほぼ毎日
  週3回以上
  週1回以上
  月1回以上
  週1回未満

〈R 4 全国との比較〉



〈R 4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



## ICTを活用した学習状況（ICTの活用を推進するための有効な取組）

○「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で11.1ポイント、中学校で15.3ポイント増加した。

【学校質問紙57(小)55(中)】

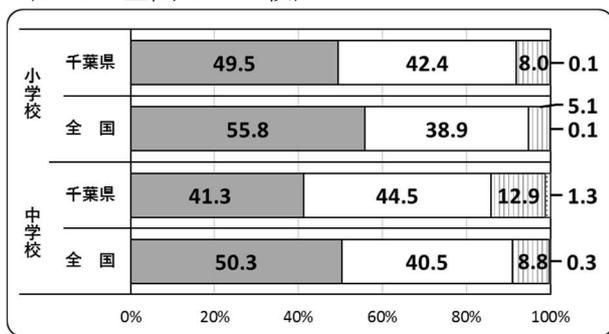
○「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか」の質問に対する肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、小学校で20.5ポイント、中学校で25.9ポイント増加した。

【学校質問紙58(小)56(中)】

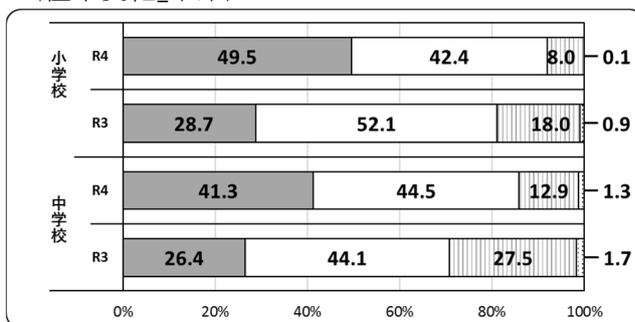
【学校質問紙57(小)55(中)】教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか

■ ある □ どちらかといえば、ある ▨ どちらかといえば、ない ▩ ない

〈R4 全国との比較〉



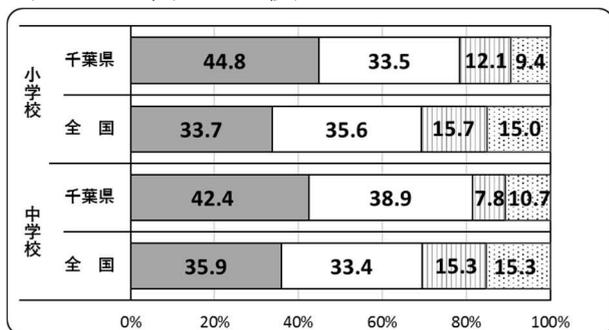
〈経年変化\_本県〉



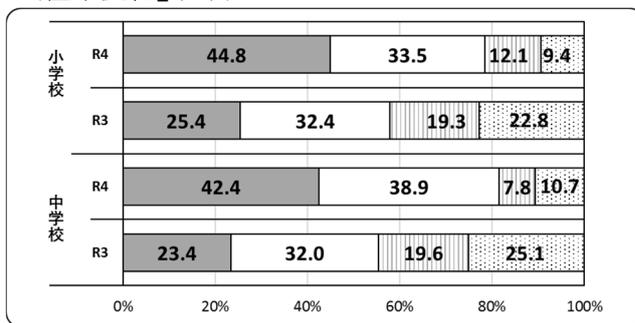
【学校質問紙58(小)56(中)】コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ（教員は除く）がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか

■ ある □ どちらかといえば、ある ▨ どちらかといえば、ない ▩ ない

〈R4 全国との比較〉



〈経年変化\_本県〉



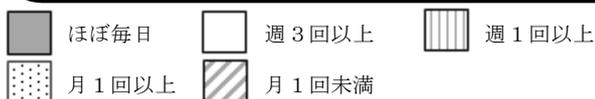
○「児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童〔生徒〕の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で0.7ポイント、中学校で5.1ポイント低い。

【学校質問紙67-3(小)65-3(中)】

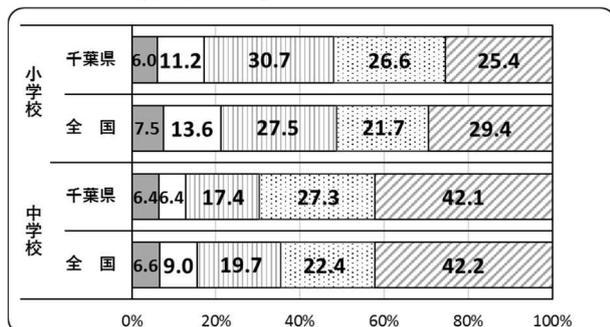
○「児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか」の質問に対し「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」と回答した割合は、全国と比較すると、小学校で0.3ポイント低く、中学校で4.4ポイント高い。

【学校質問紙67-5(小)65-5(中)】

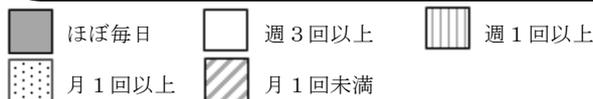
【学校質問紙67-3(小)65-3(中)】児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童〔生徒〕の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか



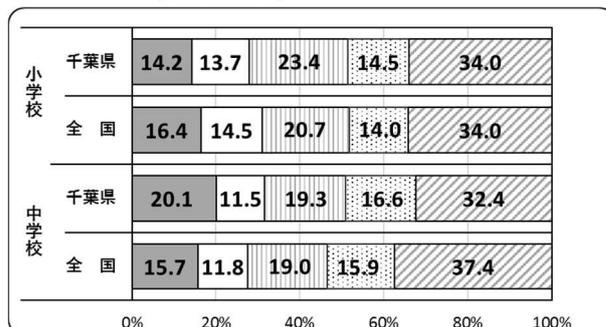
〈R4 全国との比較〉



【学校質問紙67-5(小)65-5(中)】児童〔生徒〕一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童〔生徒〕に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか



〈R4 全国との比較〉



## 国語の授業における記述の指導と国語の平均正答率とのクロス集計

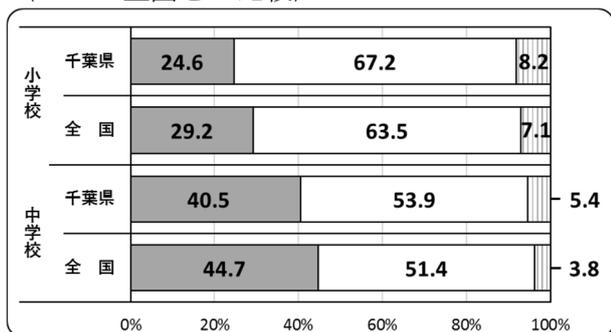
- 「調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、4.6ポイント増加した。  
【学校質問紙4 1 (小)】
- 「調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、0.6ポイント減少した。  
【学校質問紙4 1 (中)】

【学校質問紙4 1 (小)】調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか

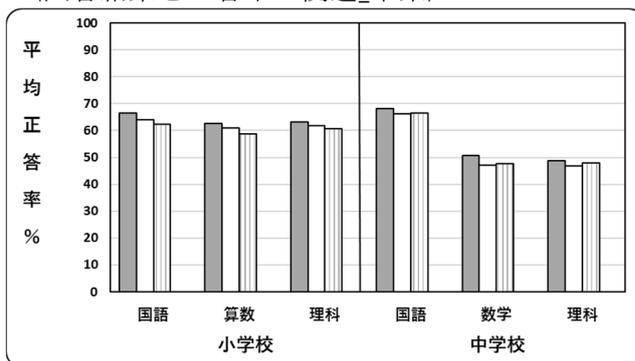
【学校質問紙4 1 (中)】調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか



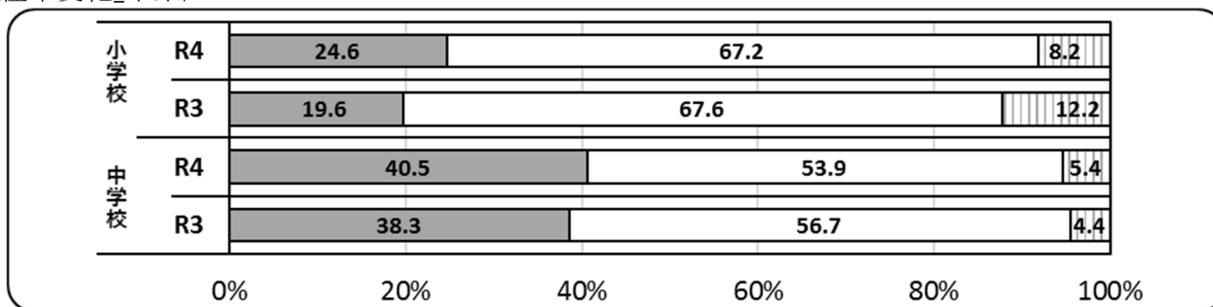
〈R4 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



## 理科の授業における探求型の指導と理科の平均正答率とのクロス集計

- 「調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、H30年度と比較すると、10.0ポイント増加した。

【学校質問紙52(小)】

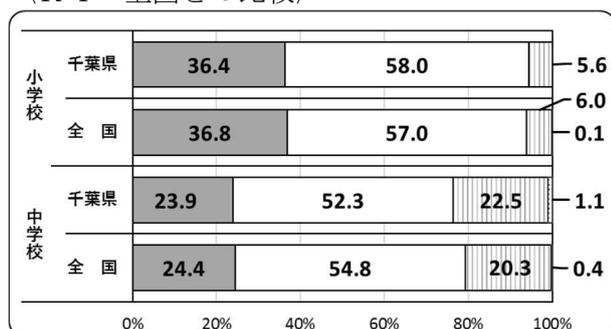
- 「調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか」の質問に対する、肯定的回答の割合は、昨年度と比較すると、7.8ポイント増加した。

【学校質問紙51(中)】

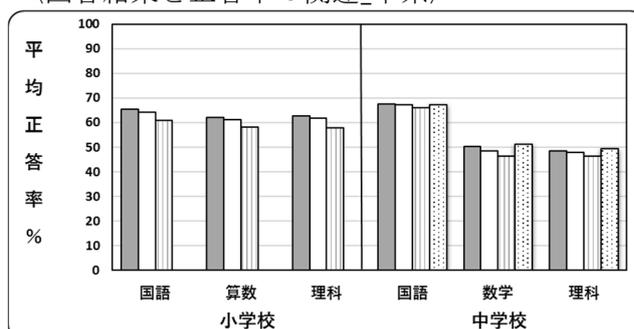
【学校質問紙52(小)】調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか  
 【学校質問紙51(中)】調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか



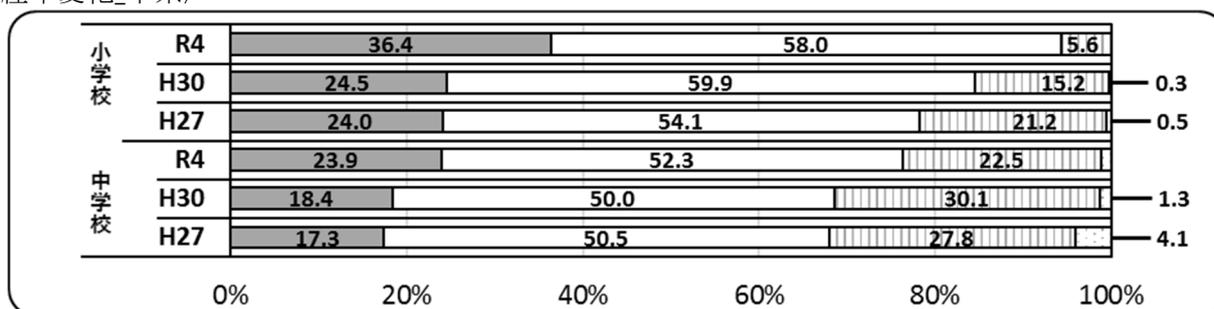
〈R4 全国との比較〉



〈回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



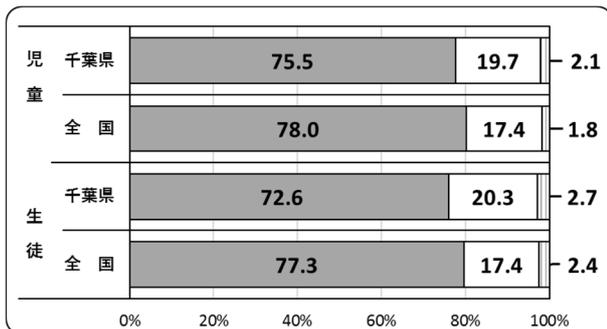
## 本調査の記述式問題に対する児童生徒の取組状況

- 「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」 【児童生徒質問紙 国1】
  - 「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」 【児童質問紙 算1】
  - 「今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明をする問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」 【生徒質問紙 数1】
  - 「今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。」 【児童生徒質問紙 理1】
- 上記4つの質問に、それぞれ肯定的に回答した児童生徒ほど各教科の平均正答率が高い。また、中学校数学で「全て書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合は、全国と比較すると4.8ポイント低い。

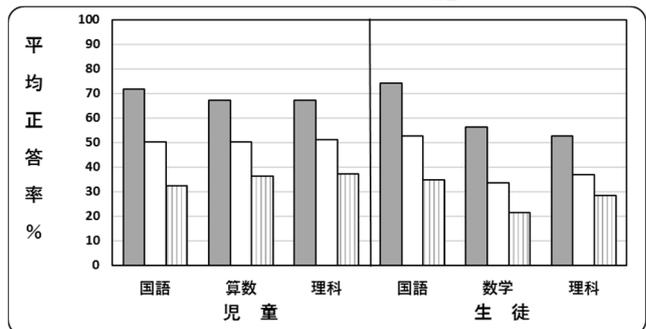
【児童生徒質問紙 国1】 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

- 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった
- 書く問題は全く解答しなかった

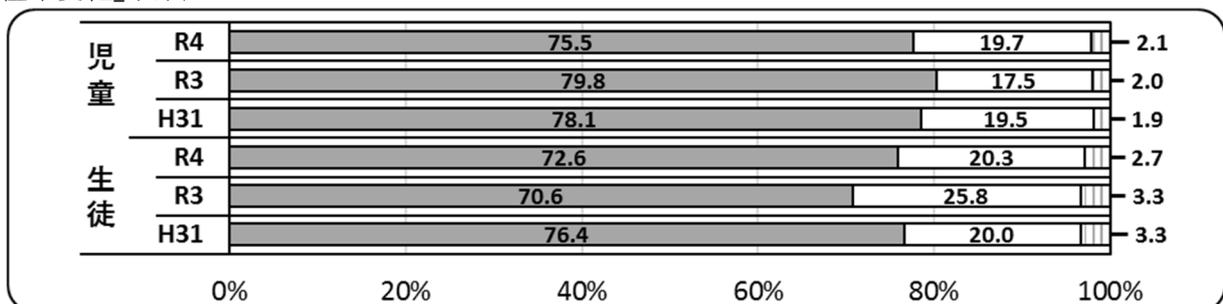
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



【児童質問紙 算1】 今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

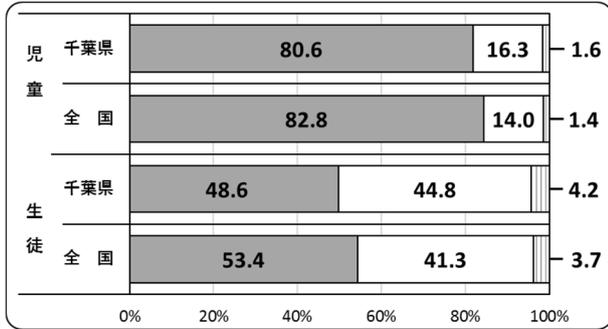
【生徒質問紙 数1】 今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

■ 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した

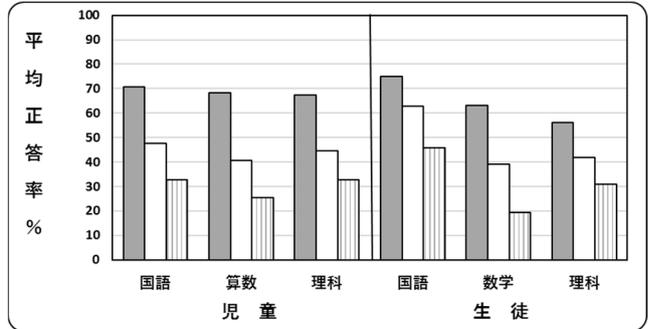
□ 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた

▨ 書く問題は全く解答しなかった

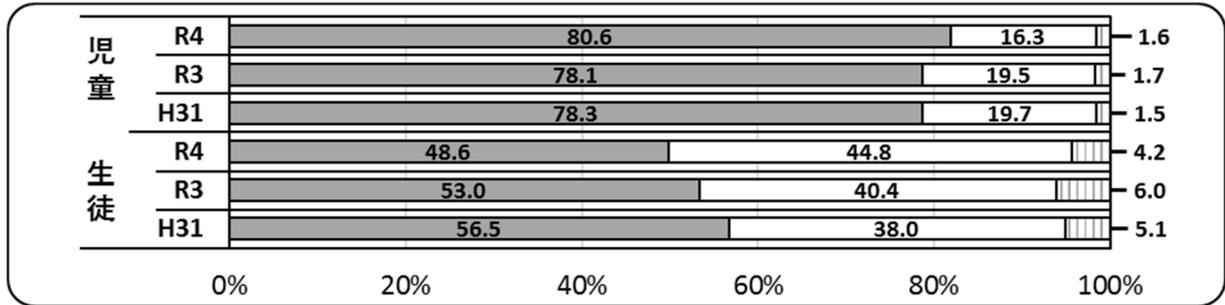
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



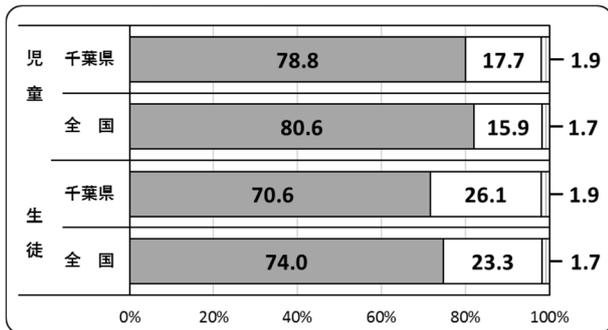
【児童生徒質問紙 理1】 今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか

■ 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した

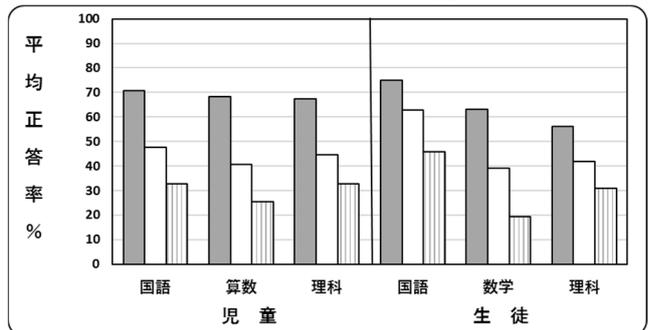
□ 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた

▨ 書く問題は全く解答しなかった

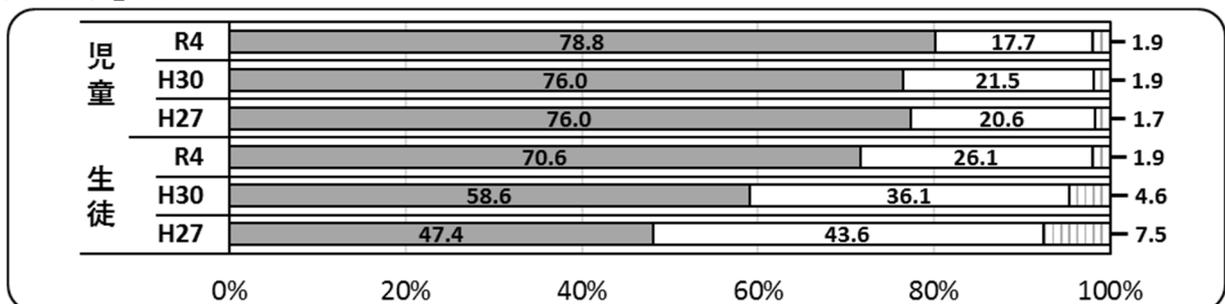
〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



## その他（ゲームやSNS・動画視聴の状況）

○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」の質問に対し「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合は、小学校児童が51.7%、中学校生徒は52.9%である。

【児童生徒質問紙5】

○「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」の質問に対し「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」と回答した割合は、小学校児童が33.9%、中学校生徒は55.9%である。

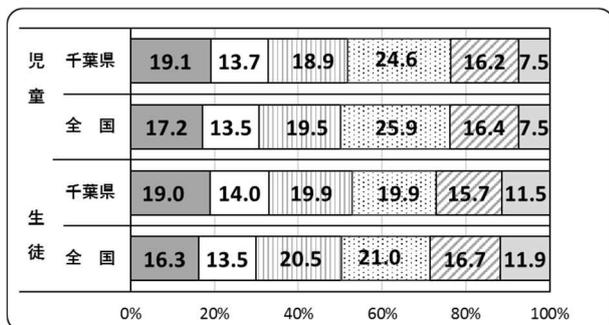
【児童生徒質問紙6】

上記2つの質問への回答結果と正答率の関連を見ると、テレビゲームをする時間や、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴する時間が長い児童生徒ほど各教科の平均正答率が低い。

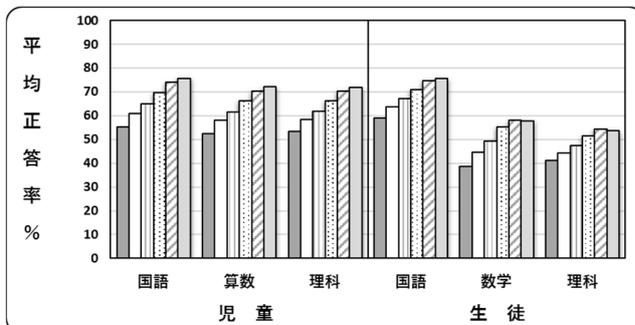
【児童生徒質問紙5】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



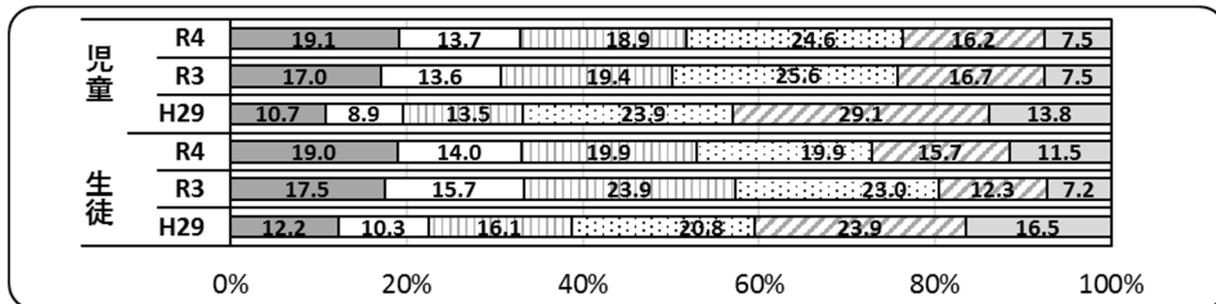
〈R4 全国との比較〉



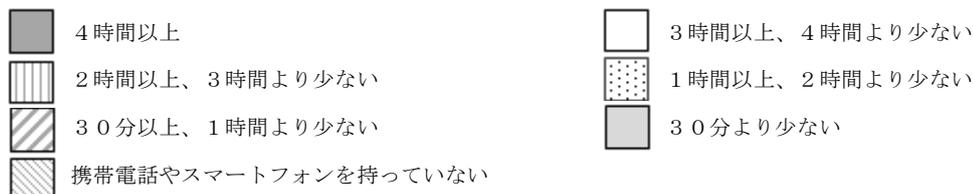
〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈経年変化\_本県〉



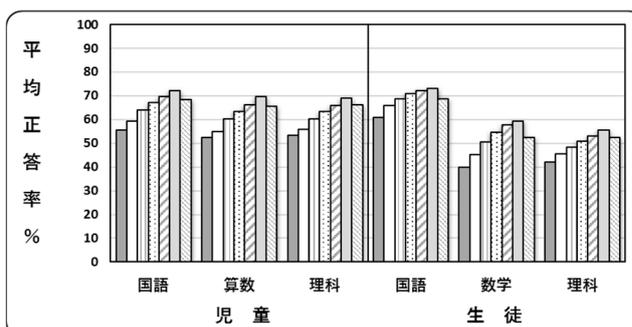
【児童生徒質問紙6】 普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）



〈R4 全国との比較〉



〈R4 回答結果と正答率の関連\_本県〉



〈参考〉 本年度の主な変更点

○実施時期

令和3年度は、5月に調査を実施しましたが、今年度は従来の4月実施となりました。（昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮して、令和3年5月27日（木）に実施されました。）

○教科に関する調査

小学校及び中学校の双方において、国語、算数・数学に加えて理科の調査が実施されました。

○質問紙調査

令和3年度は、児童生徒質問紙調査について、一部の学校で、PC・タブレット端末を活用したオンラインによる回答方式で実施されました。令和4年度は、規模を拡大し、20万人程度の児童生徒を対象に、希望する小中学校において、一定期間（令和4年4月19日（火）～4月28日（木））で、各学校の実施日をあらかじめ決定し、日にちを分散して実施しました（千葉県では、小学校で54校、中学校で20校がオンラインによる実施）。

令和4年度は、従来、質問紙調査に盛り込まれていた教科調査の問題に関する質問項目（各教科2問）は、回答結果の正確性を確保する観点から、教科調査の解答時間終了直後に紙形式で回答しました。

○文部科学省提供資料については、国立教育政策研究所のWebページから入手できます。  
[\[http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html\]](http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html)